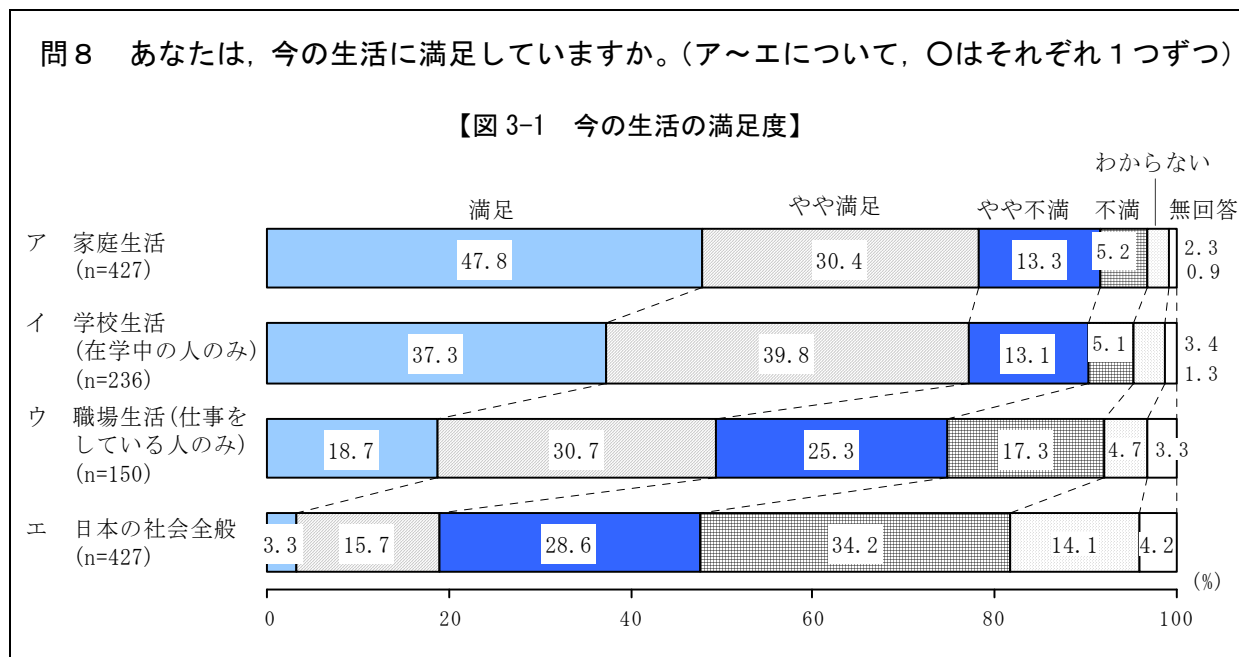


3 気持ちや考え方について

(1) 今の生活の満足度



「ア 家庭生活」と「イ 学校生活」に対しては、「満足」（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）がそれぞれ78.2%、77.1%となっている。

「ウ 職場生活」に対しては、「満足」が49.4%、「不満」（「やや不満」と「不満」を合わせた割合）が42.6%で、「満足」のほうがやや多いものの、「不満」の割合との差は接近している。

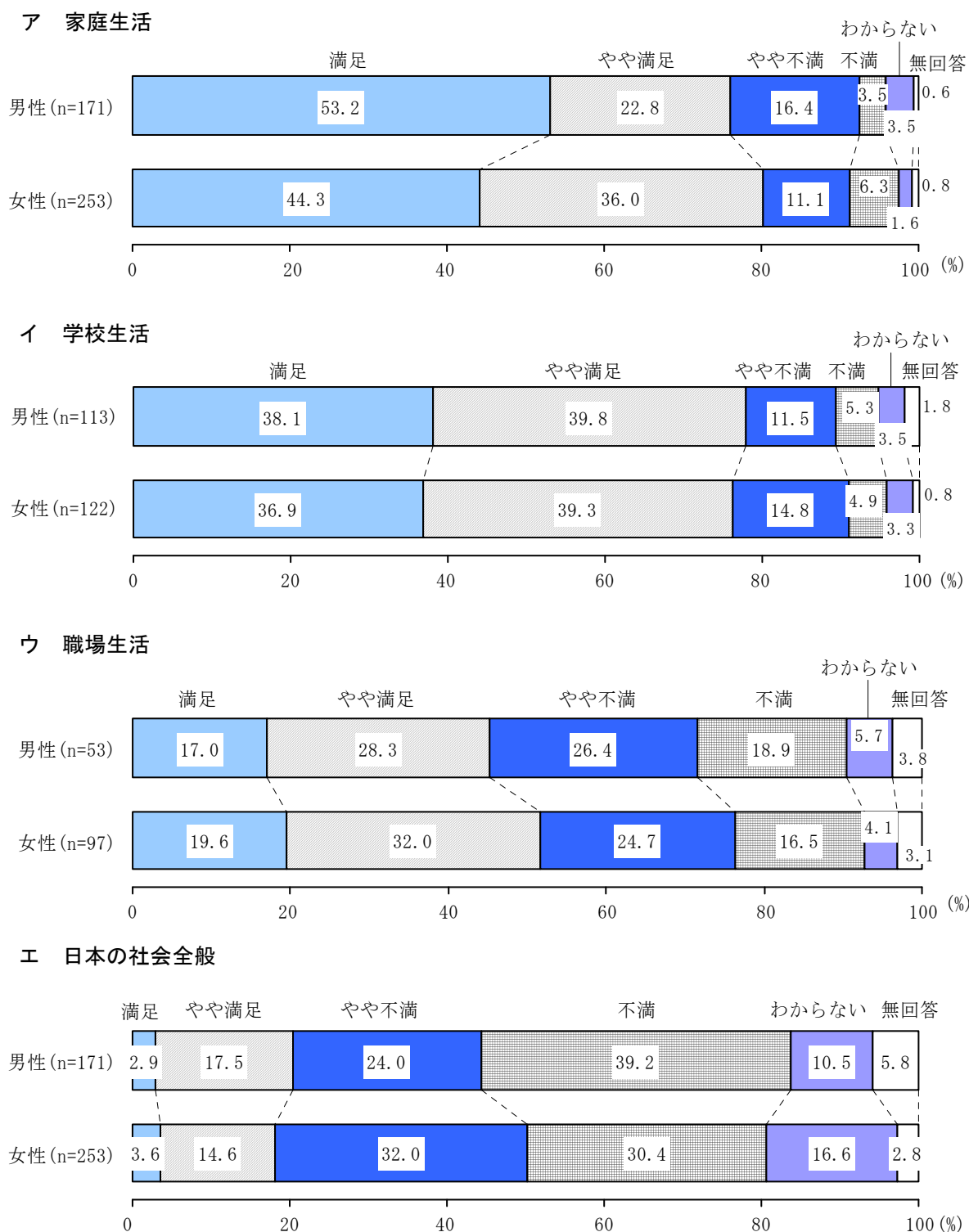
「エ 日本の社会全般」に対しては、「不満」が62.8%で、他の項目と比較すると大幅に高くなっている。（図3-1）

性別で見ると、「ア 家庭生活」「イ 学校生活」に対しては、男女とも8割前後が「満足」と回答している。

「ウ 職場生活」に対しては、男性では「満足」(45.3%)と「不満」(45.3%)が同率となっているが、女性では、「不満」(41.2%)よりも「満足」(51.6%)が多い。

「エ 日本の社会全般」に対しては、男女とも「不満」(男性63.2%、女性62.4%)が6割を占めている。(図3-1-1)

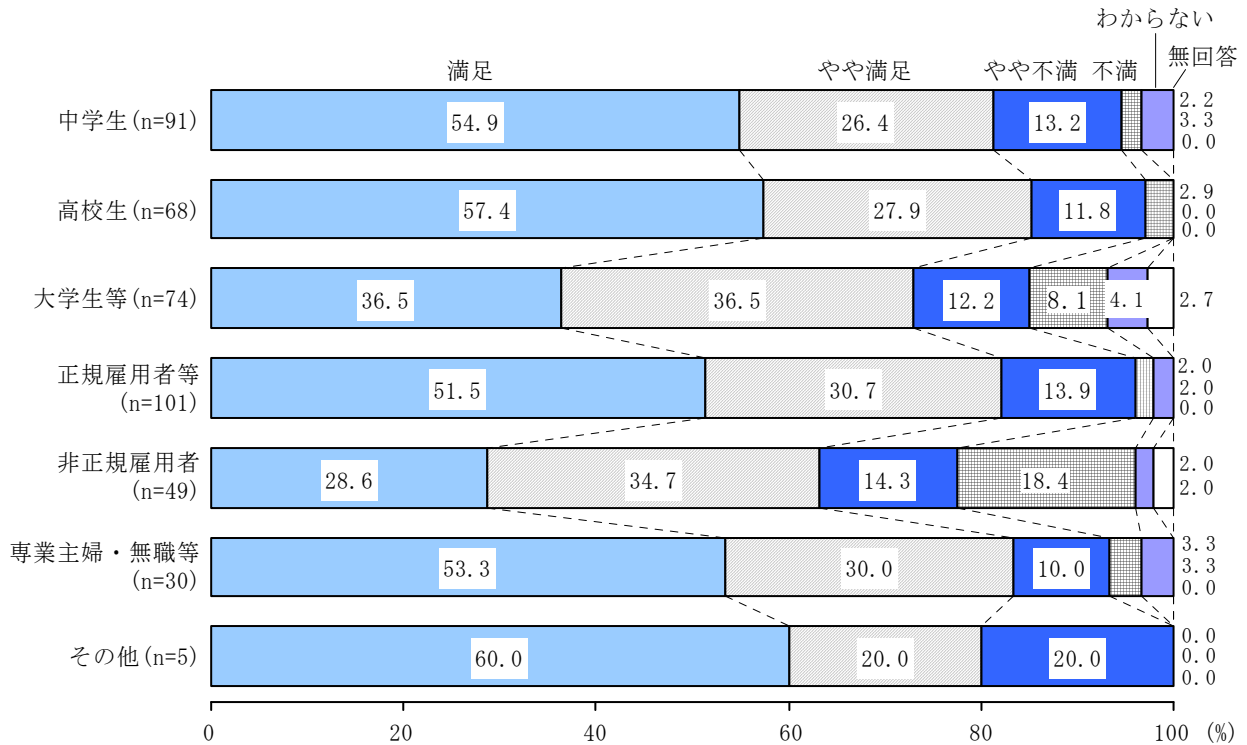
【図3-1-1 性別 今の生活の満足度】



就学・就労形態別でみると、「ア 家庭生活」に対する「満足」の割合は、高校生が85.3%で最も高く、次いで専業主婦・無職等（83.3%）、正規雇用者等（82.2%）となっている。

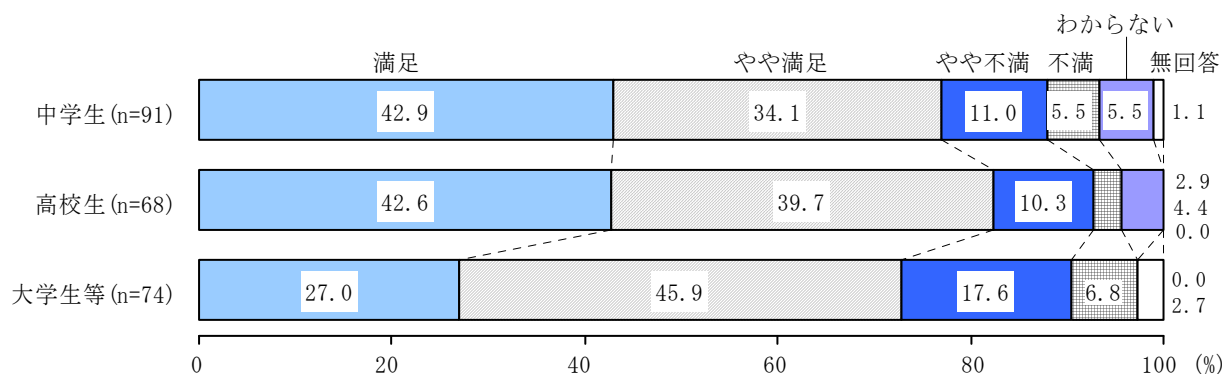
これに対し、非正規雇用者では「不満」の割合が32.7%で、他の形態と比較すると最も高い。雇用や収入の不安定さが不満の背景にあるものと考えられる。（図3-1-2①）

【図 3-1-2① 就学・就労形態別 今の生活の満足度<ア 家庭生活>】



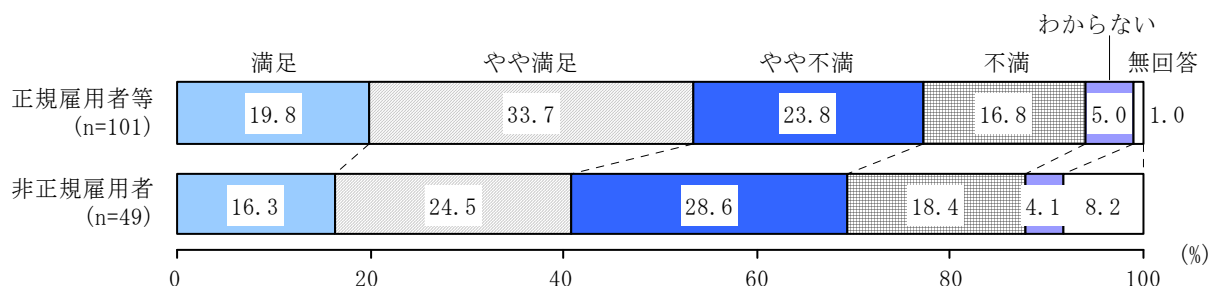
「イ 学校生活」に対する「満足」も、高校生が82.3%で最も高く、次いで中学生の77.0%となっている。大学生等でも「満足」が72.9%を占めるが、中高生の割合に比べやや低い。（図3-1-2②）

【図 3-1-2② 就学・就労形態別 今の生活の満足度<イ 学校生活>】



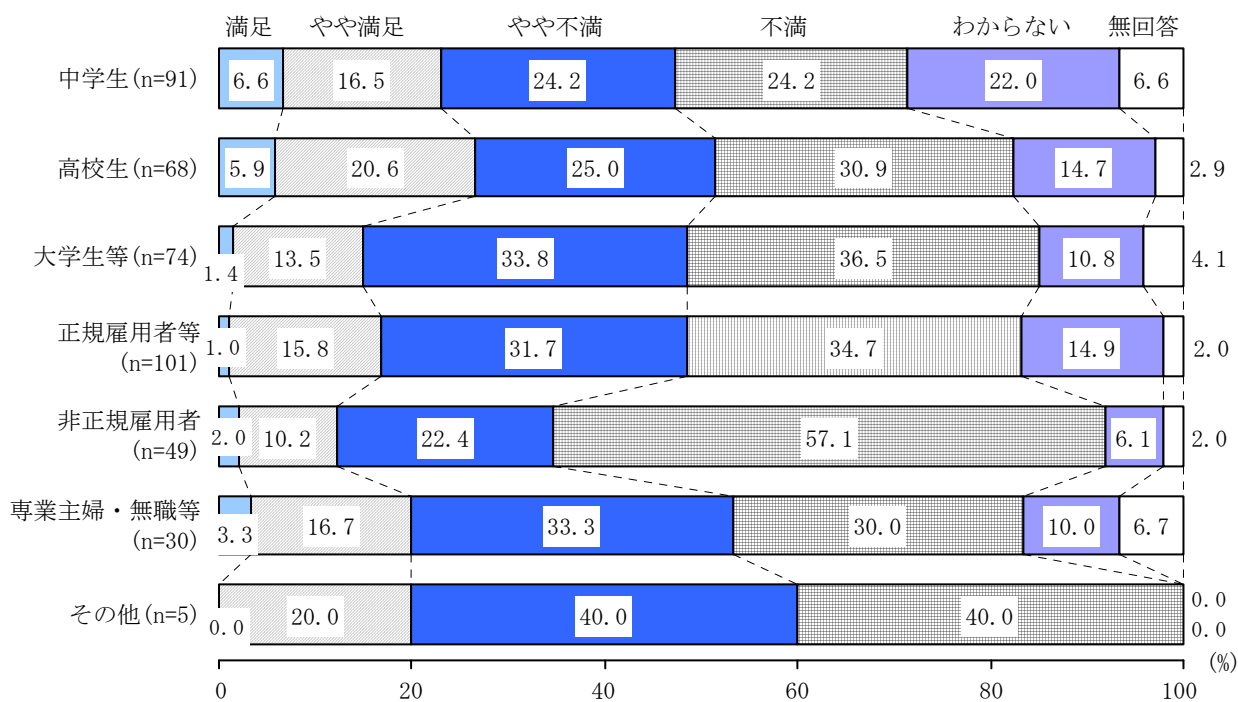
「ウ 職業生活」に対する「満足」は、正規雇用者等が53.5%に対し、非正規雇用者は40.8%と低くなっている。正規雇用に比べ、収入や処遇面などでの格差が不満の背景要因にあるものと考えられる。(図3-1-2③)

【図3-1-2③ 就学・就労形態別 今の生活の満足度<ウ 職場生活>】



「エ 日本の社会全般」に対しては、いずれの形態でも「満足」に比べ「不満」の割合が高く、特に非正規雇用者は79.5%で最も高い。家庭生活や職業生活における不満要因をはじめ、派遣切りなどの社会的な問題が発生しているにもかかわらず、国や行政などによる具体的な支援策が見えてこないところに不満の背景があるものと考えられる。(図3-1-2④)

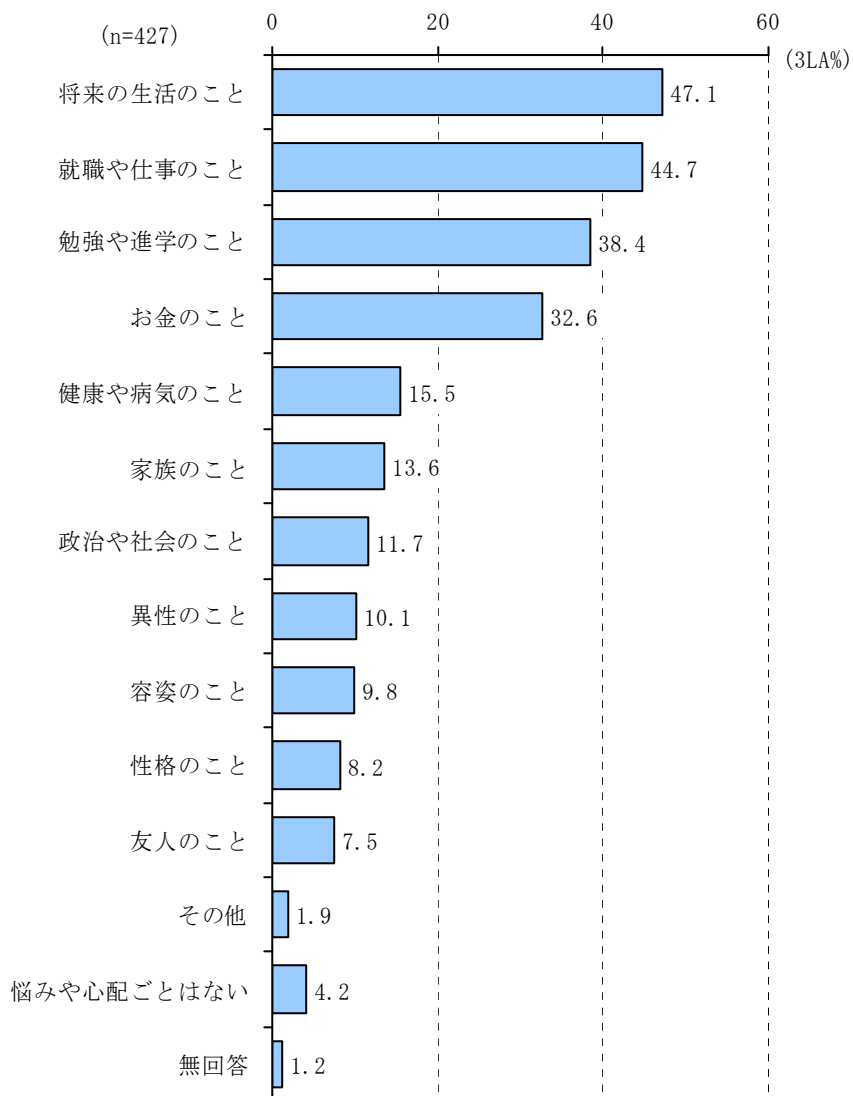
【図3-1-2④ 就学・就労形態別 今の生活の満足度<エ 日本の社会全般>】



(2) 悩みや心配ごと

問9 あなたは、どのような悩みや心配ごとがありますか。(○は主なもの3つまで)

【図3-2 悩みや心配ごと】



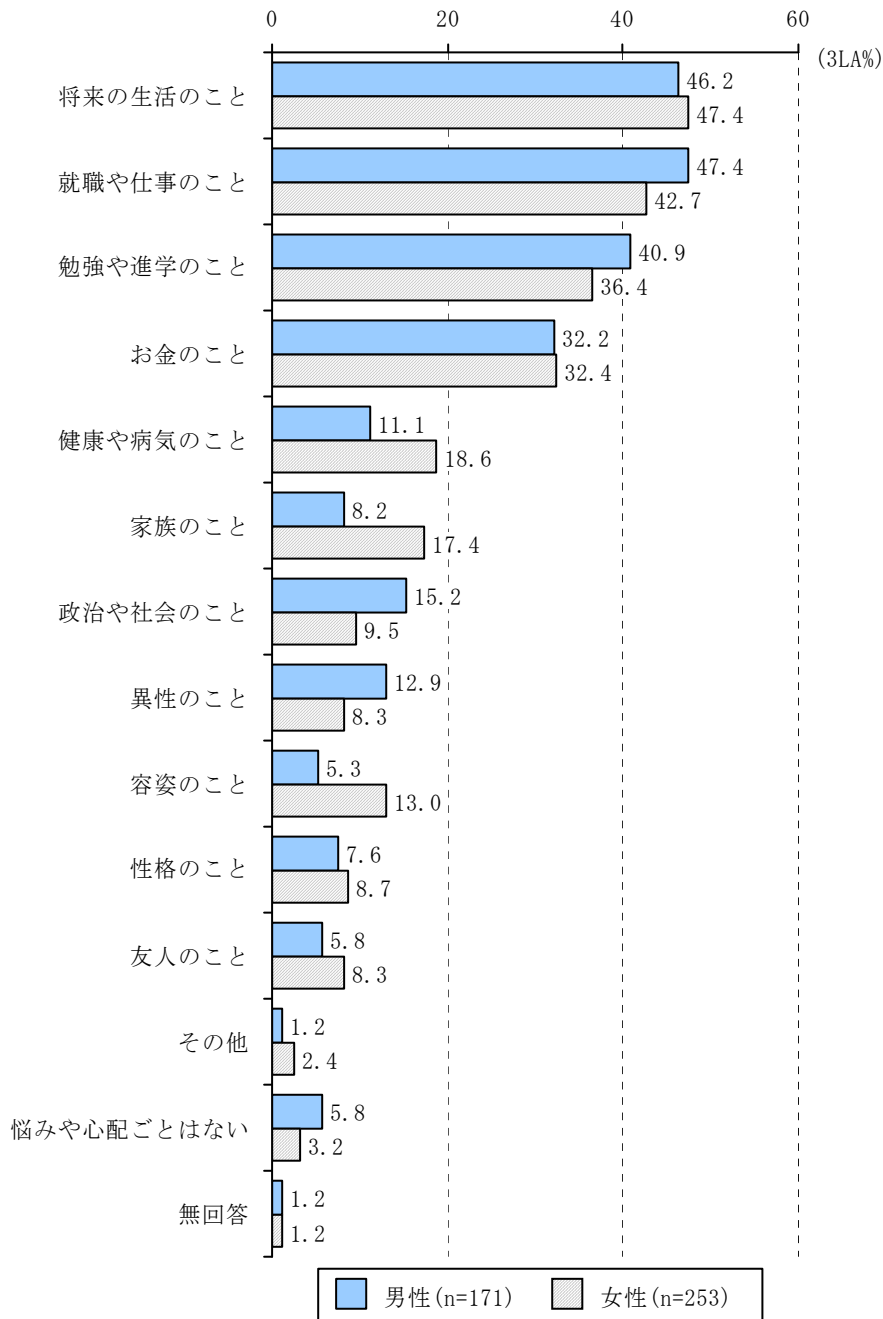
「将来の生活のこと」が47.1%で最も多く、次いで「就職や仕事のこと」(44.7%)、「勉強や進学のこと」(38.4%)、「お金のこと」(32.6%)となっている。

問8の「今の生活の満足度」で、「エ 日本の社会全般」に対する不満が62.8%を占めていたにもかかわらず、本設問は「政治や社会のこと」を選択した青少年は11.7%であることから、日本社会に対する漠然とした不満を持ちながらも、自らの悩みとして政治や社会について考える傾向は少ない様子がうかがえる。

一方、「悩みや心配ごとはない」は4.2%となっている。(図3-2)

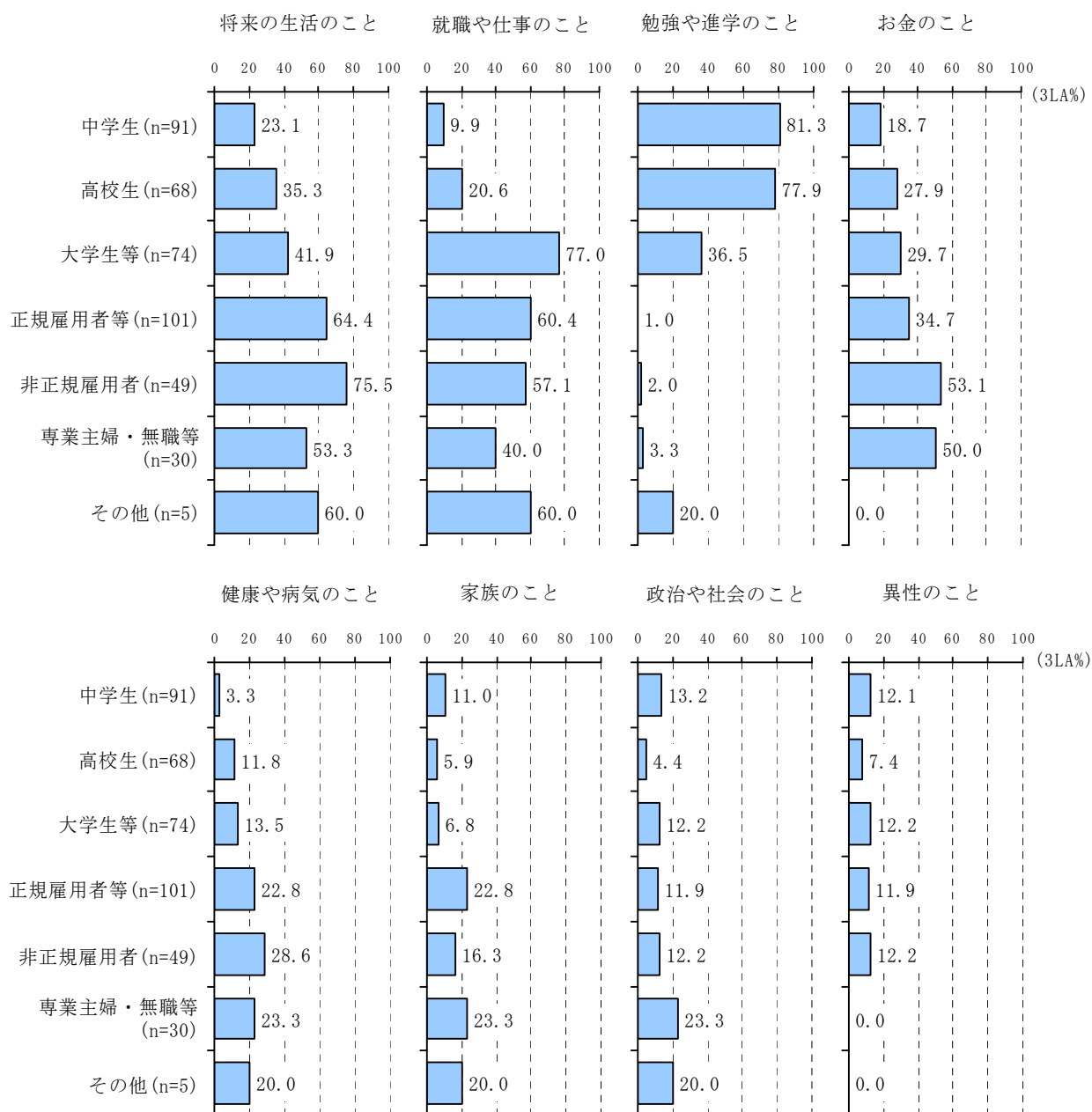
性別で見ると、男性、女性共に、「就職や仕事のこと」と「将来の生活のこと」が多い。
 男性と女性で5ポイント以上差が生じているのは、「健康や病気のこと」「家族のこと」「容姿のこと」「政治や社会のこと」である。(図3-2-1)

【図 3-2-1 性別 悩みや心配ごと】

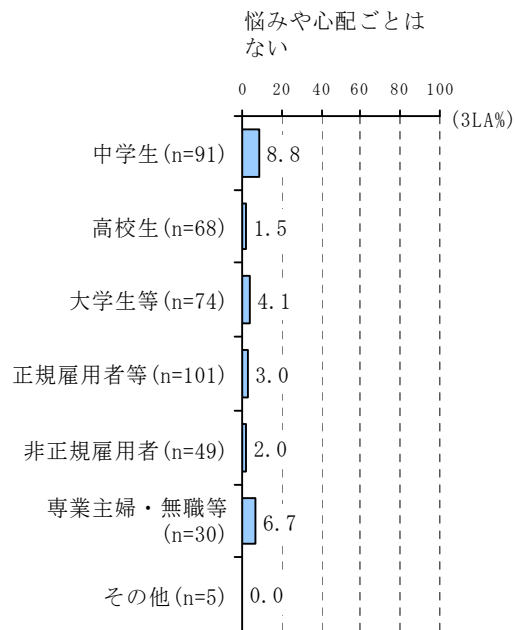
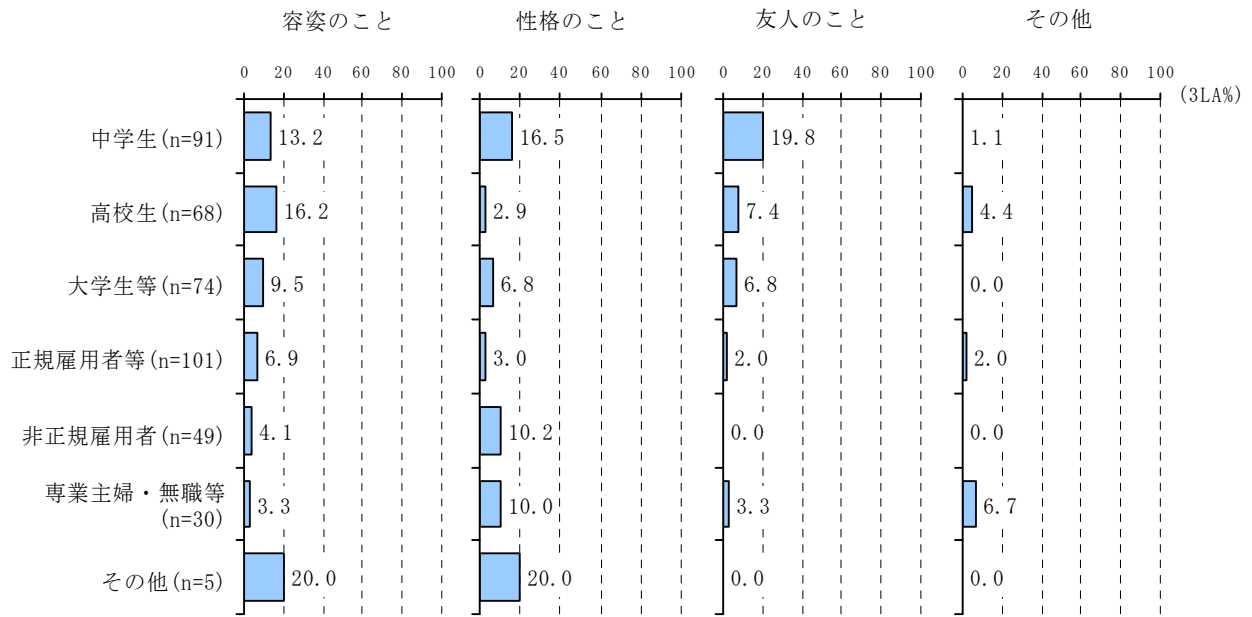


就学・就労形態別でみると、中学生・高校生は「勉強や進学のこと」が、大学生等は「就職や仕事のこと」がそれぞれ8割前後で最も多い。正規雇用者等や非正規雇用者、専業主婦・無職等は「将来の生活のこと」が最も多くなっている。(図3-2-2①～②)

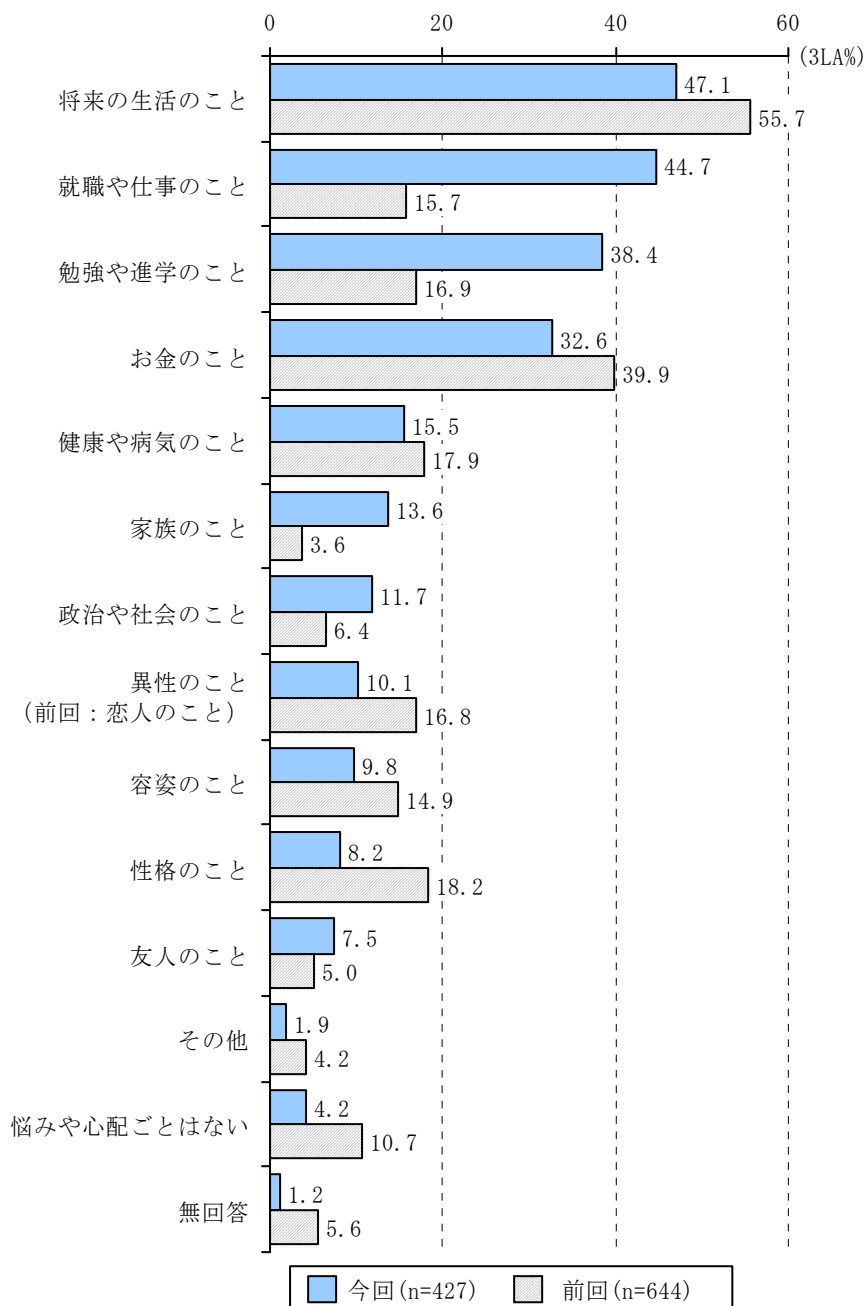
【図3-2-2① 就学・就労形態別 悩みや心配ごと】



【図 3-2-2② 就学・就労形態別 悩みや心配ごと】



<前回調査との比較>



前回同様、「将来の生活のこと」が最も多いが、前回調査と比較すると8.6ポイント低下している。

前回調査に比べ「就職や仕事のこと」「勉強や進学のこと」が大きく上昇している。

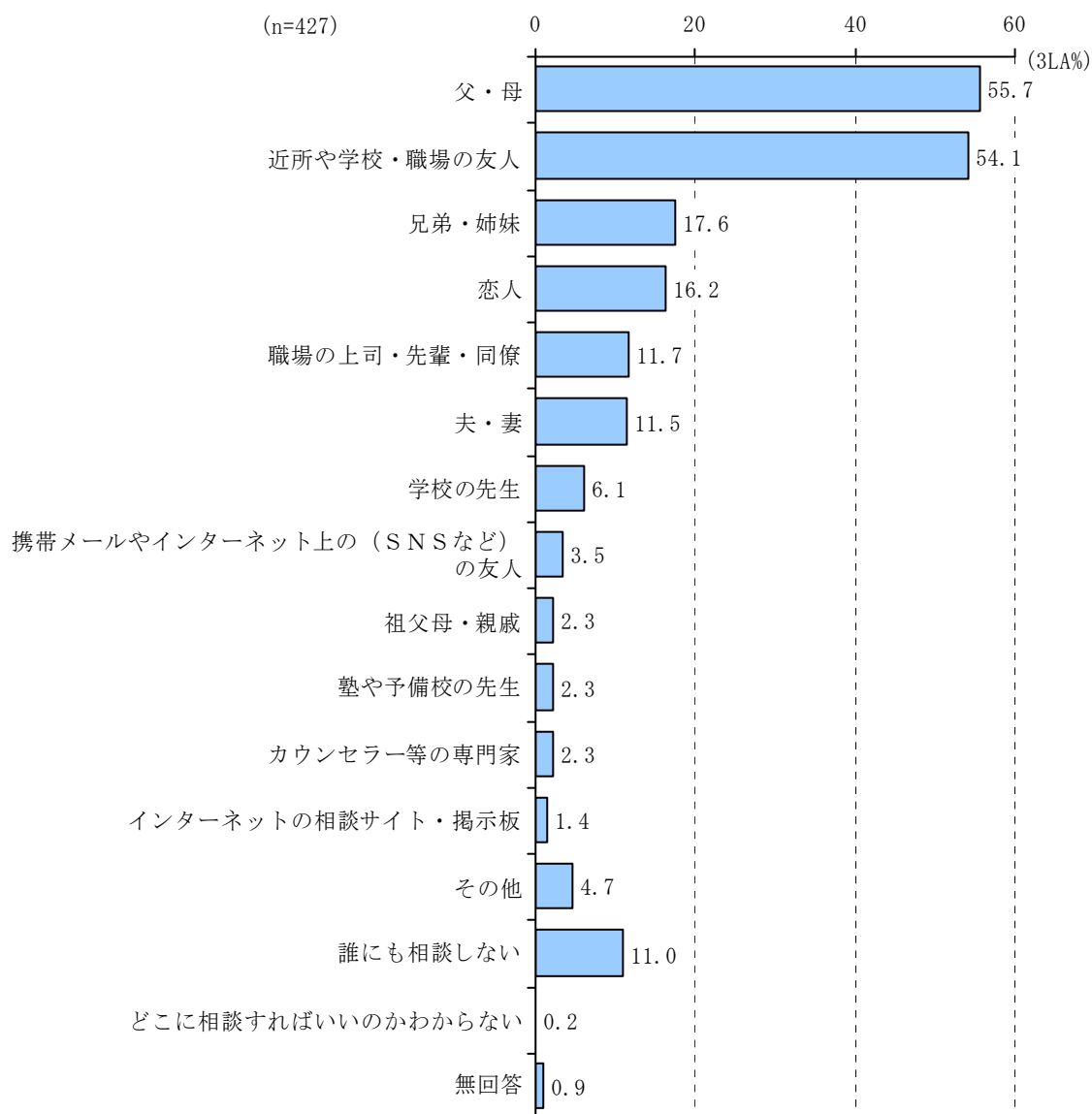
「勉強や進学のこと」は中学生・高校生、「就職や仕事のこと」は大学生等で特に高い割合となっている。前回調査以降、平成20年9月のリーマンショックやその影響による派遣切り・雇い止めなどの雇用問題の発生など、社会経済を取り巻く情勢は大きく変動している。このような状況が意識変化の背景にあるものと考えられる。

(3) 相談相手

問10 あなたは、悩みや心配ごとがあるとき、誰に相談していますか。

(○は主なもの3つまで)

【図 3-3 相談相手】



「父・母」が55.7%、「近所や学校・職場の友人」が54.1%でそれぞれ半数を超えている。次いで「兄弟・姉妹」(17.6%)、「恋人」(16.2%)となっている。

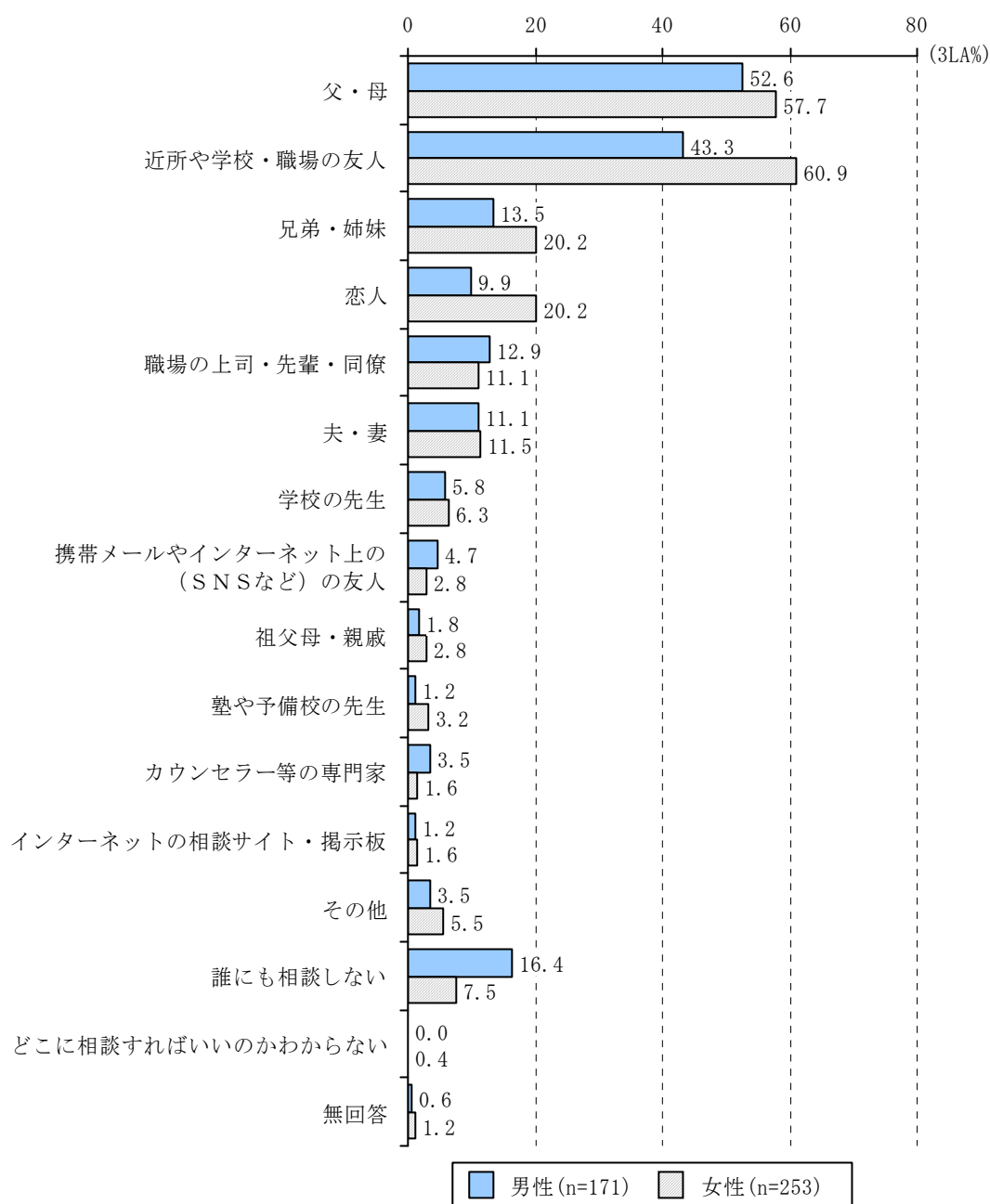
一方で「誰にも相談しない」(11.0%)が10人に1人の割合となっている。(図3-3)

性別で見ると、男性は「父・母」が52.6%で最も多く、次いで「近所や学校・職場の友人」(43.3%)となっている。「誰にも相談しない」が16.4%で、女性に比べ高くなっている。

女性は「近所や学校・職場の友人」が60.9%で最も多く、次いで「父・母」(52.6%)となっており、いずれの割合も男性に比べ高い。

男性に比べ女性の方が相談相手の選択肢が多いのに対し、男性は悩みごとがあっても誰にも相談せず、自分自身の中で抱える傾向がやや強い。(図3-3-1)

【図 3-3-1 性別 相談相手】



就学・就労形態別でみると、高校生と大学生等は「近所や学校・職場の友人」が6割台で最も多い。他の形態では「父・母」が5～6割台で最も多い。

「誰にも相談しない」については、全体では11.0%だが、中学生、高校生は14%台で、他の形態より高くなっている。

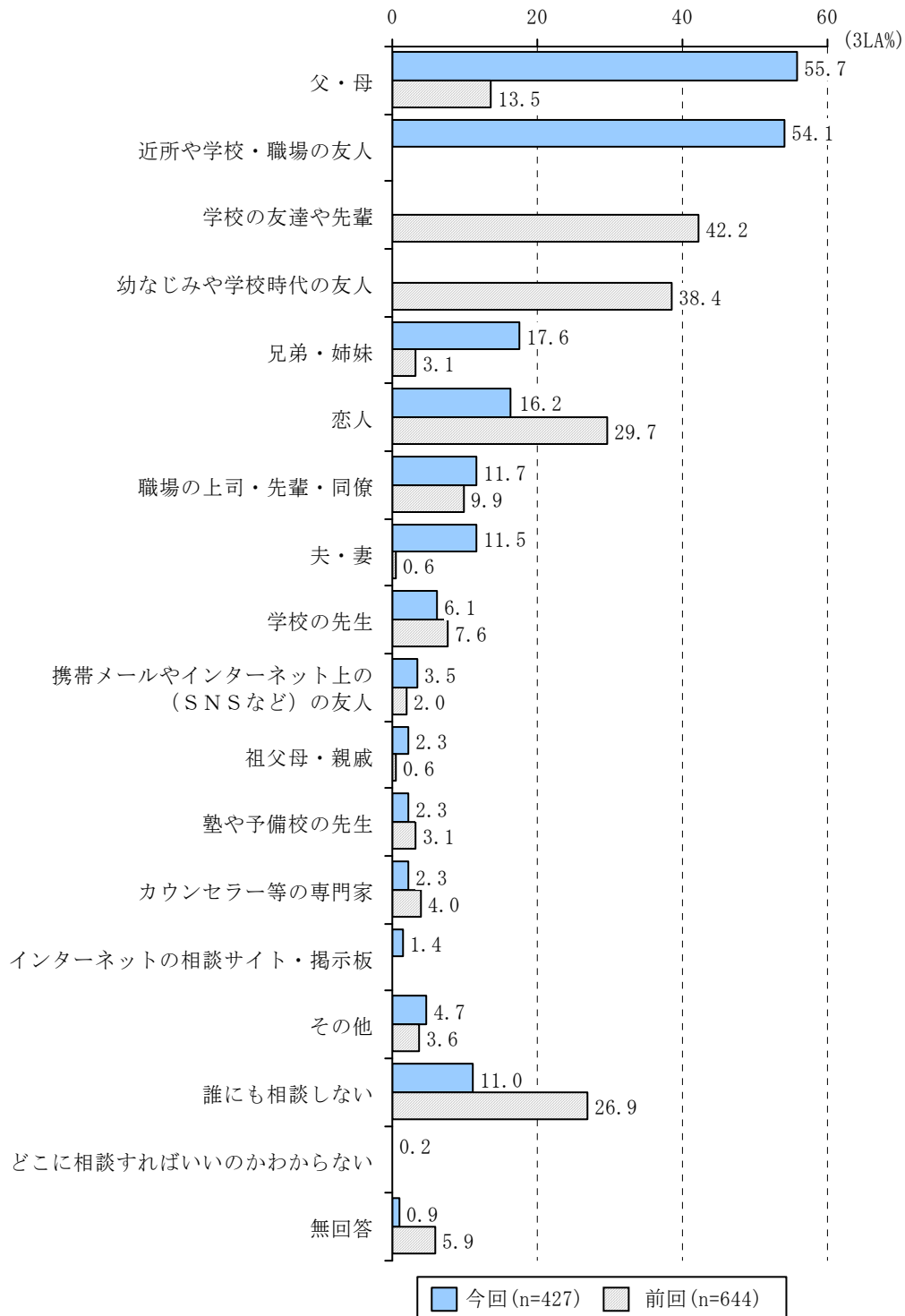
多感な年代である中学生や高校生で悩みを自分自身の中に抱え込む傾向がややみられる。
(表3-3-2)

【表 3-3-2 就学・就労形態別 相談相手】

(単位：3LA%)

	n	父・母	近所や学校・職場の友人	兄弟・姉妹	恋人	職場の上司・先輩・同僚	夫・妻	学校の先生	携帯メールやインターネットの友人(SNS など)	祖父母・親戚	塾や予備校の先生	カウンセラー等の専門家	インターネットの相談サイト・掲示板	その他	誰にも相談しない	どこに相談すればいいのかわからない	無回答
中学生	91	64.8	56.0	17.6	4.4	1.1	-	19.8	5.5	4.4	3.3	2.2	-	3.3	14.3	-	-
高校生	68	47.1	64.7	10.3	7.4	2.9	1.5	8.8	-	-	8.8	1.5	2.9	4.4	14.7	-	-
大学生等	74	50.0	64.9	23.0	23.0	8.1	4.1	2.7	4.1	-	-	2.7	-	-	8.1	1.4	1.4
正規雇用者等	101	53.5	49.5	15.8	26.7	27.7	21.8	-	2.0	1.0	-	4.0	2.0	6.9	8.9	-	-
非正規雇用者	49	59.2	38.8	18.4	28.6	24.5	8.2	-	6.1	2.0	-	2.0	2.0	8.2	12.2	-	2.0
専業主婦・無職等	30	63.3	26.7	23.3	6.7	3.3	56.7	-	3.3	13.3	-	-	-	10.0	6.7	-	3.3
その他	5	60.0	60.0	40.0	-	-	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	20.0

<前回調査との比較>

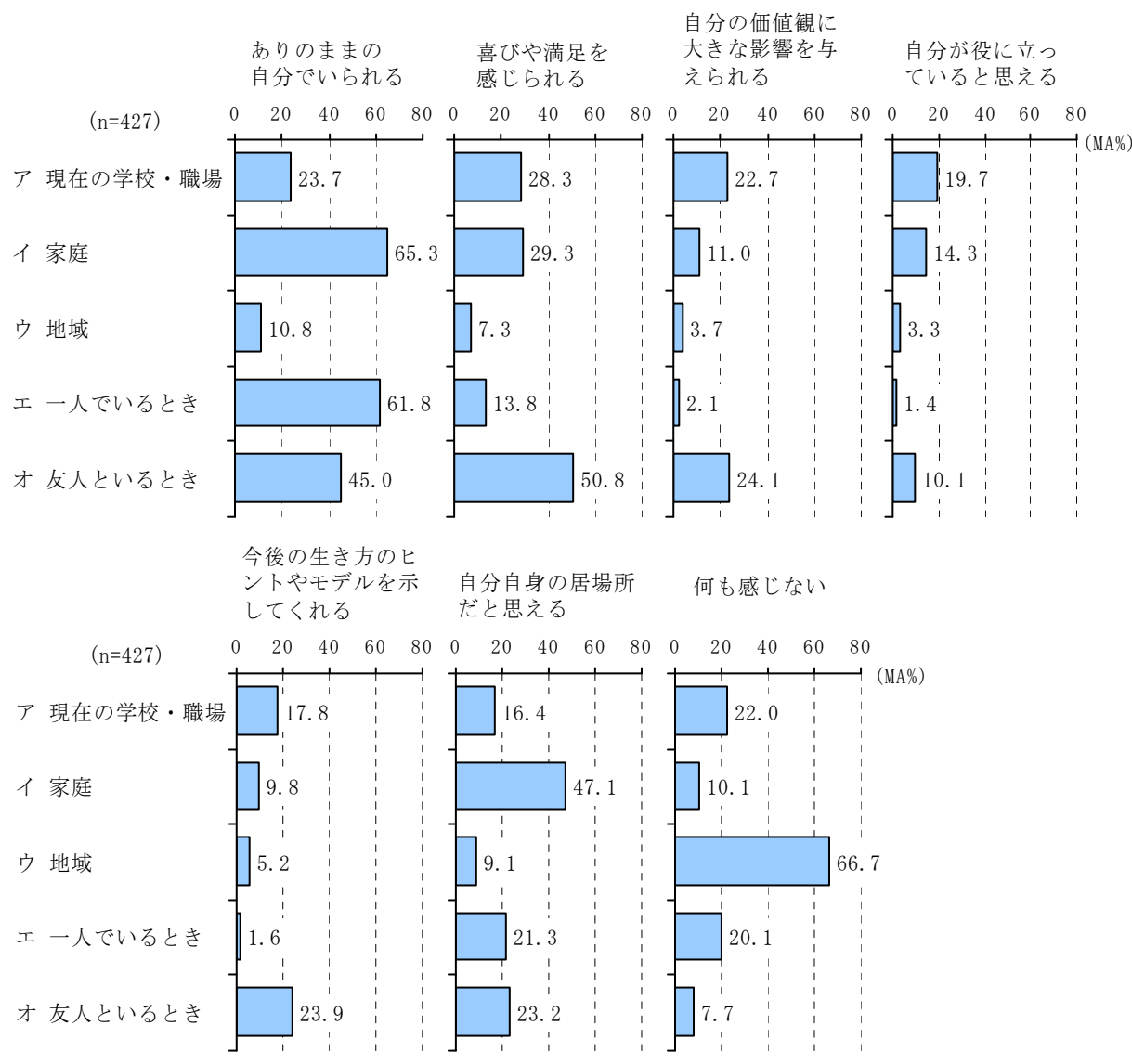


前回調査と選択肢が異なるので単純に比較できない部分もあるが、前回調査と比較すると、「父・母」「兄弟・姉妹」「夫・妻」と、親族を選んだ回答が多くなっている。一方、「誰にも相談しない」の割合は、前回調査に比べ15.9ポイント低下している。

(4) 普段感じる気持ち

問11 あなたが、次のア～オの場所や場面で普段感じる気持ちについてお聞かせください。
(ア～オについて、〇はそれぞれいくつでも)

【図3-4 普段感じる気持ち】



「ア 現在の学校・職場」は、「喜びや満足を感じられる」が28.3%で最も多く、次いで「ありのままの自分でいられる」(23.7%)となっている。全体的にどの項目も2割前後であり、青少年が生活時間の大半を過ごす場であるにもかかわらず、影響を受けているという認識が少ないということがうかがえる。

「イ 家庭」と「エ 一人有的时候」は、「ありのままの自分でいられる」(イ 65.3%、エ 61.8%)が過半数を占め、最も多い。

「ウ 地域」は、「何も感じない」が66.7%で最も多く、その他の項目は10%台か、それ以下となっており、影響を受けることが少ないということがうかがえる。

「オ 友人といるとき」では、「喜びや満足を感じられる」が50.8%を占め、次いで「ありのままの自分でいられる」も45.0%と半数近くを占める。(図3-4)

主な就学・就労形態別に普段感じる気持ちをみると、次のとおりである。

中学生では、「ありのままの自分でいられる」場所や場面は、「家庭」が68.1%で最も多く、次いで「一人有的时候き」(59.3%)、「友人といるとき」(48.4%)となっている。

「喜びや満足を感じられる」や「自分の価値観に大きな影響を与えられる」、「自分が役に立っていると思える」、「今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる」では「友だちといるとき」が最も多い。これに次いで「自分が役に立っていると思える」場所や場面では、「家庭」が、それ以外では「学校・職場」も多くなっている。

また、「自分自身の居場所だと思える」場面・場所は、「家庭」が52.7%で最も多く、次いで「友だちといるとき」(34.1%)が続いている。「何も感じない」は「地域」が60.4%で最も多い。(表3-4-2①)

【表 3-4-2① 就学・就労形態別 普段感じる気持ち<中学生>】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ありのままの自分でいられる	家庭	一人有的时候き	友人といるとき	学校・職場	地域
	68.1	59.3	48.4	40.7	15.4
喜びや満足を感じられる	友人といるとき	学校・職場	家庭	一人有的时候き	地域
	62.6	42.9	35.2	13.2	12.1
自分の価値観に大きな影響を与えられる	友人といるとき	学校・職場	家庭	地域	一人有的时候き
	25.3	22.0	15.4	7.7	4.4
自分が役に立っていると思える	友人といるとき	家庭	学校・職場	地域	一人有的时候き
	19.8	14.3	13.2	6.6	5.5
今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる	友人といるとき	学校・職場	家庭	一人有的时候き	地域
	24.2	20.9	12.1	2.2	2.2
自分自身の居場所だと思える	家庭	友人といるとき	学校・職場	一人有的时候き	地域
	52.7	34.1	27.5	27.5	8.8
何も感じない	地域	学校・職場	一人有的时候き	家庭	友人といるとき
	60.4	24.2	19.8	15.4	8.8

高校生についても、中学生と順位はほぼかわらないが、「今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる」は「学校・職場」(14.7%)が最も多くなっている。

「何も感じない」は「地域」が70.6%で最も多い。(表3-4-2②)

【表 3-4-2② 就学・就労形態別 普段感じる気持ち<高校生>】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ありのままの自分でいられる	家庭	一人有的时候き	友人といるとき	学校・職場	地域
	69.1	57.4	55.9	38.2	14.7
喜びや満足を感じられる	友人といるとき	学校・職場	家庭	一人有的时候き	地域
	47.1	39.7	29.4	16.2	7.4
自分の価値観に大きな影響を与えられる	友人といるとき	学校・職場	家庭	地域	一人有的时候き
	19.1	16.2	7.4	2.9	1.5
自分が役に立っていると思える	友人といるとき	学校・職場	家庭	一人有的时候き	地域
	11.8	10.3	4.4	-	-
今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる	学校・職場	友人といるとき	家庭	地域	一人有的时候き
	14.7	13.2	7.4	2.9	1.5
自分自身の居場所だと思える	家庭	学校・職場	友人といるとき	一人有的时候き	地域
	42.6	26.5	25.0	17.6	5.9
何も感じない	地域	一人有的时候き	学校・職場	家庭	友人といるとき
	70.6	29.4	19.1	13.2	10.3

大学生等については、「ありのままの自分でいられる」は「一人有的时候き」が64.9%で最も多く、次いで「家庭」が58.1%となっている。

「喜びや満足を感じられる」は、中学生・高校生と同様、「友人といるとき」が47.5%で最も多い。

「自分の価値観に大きな影響を与えられる」や「自分が役に立っていると思える」、「今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる」は「学校・職場」が最も多く、「自分自身の居場所だと思える」は「家庭」が44.6%と最も多くなっている。

「何も感じない」は「地域」が67.6%で最も多い。(表3-4-2③)

【表 3-4-2③ 就学・就労形態別 普段感じる気持ち<大学生等>】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ありのままの自分でいられる	一人有的时候き	家庭	友人といるとき	学校・職場	地域
	64.9	58.1	36.5	23.0	6.8
喜びや満足を感じられる	友人といるとき	学校・職場	一人有的时候き	家庭	地域
	52.7	23.0	16.2	13.5	6.8
自分の価値観に大きな影響を与えられる	学校・職場	友人といるとき	家庭	地域	一人有的时候き
	36.5	31.1	9.5	5.4	2.7
自分が役に立っていると思える	学校・職場	家庭	友人といるとき	地域	一人有的时候き
	16.2	12.2	9.5	1.4	-
今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる	学校・職場	友人といるとき	家庭	地域	一人有的时候き
	27.0	16.2	12.2		1.4
自分自身の居場所だと思える	家庭	友人といるとき	一人有的时候き	学校・職場	地域
	44.6	28.4	18.9	16.2	12.2
何も感じない	地域	学校・職場	一人有的时候き	家庭	友人といるとき
	67.6	17.6	14.9		6.8

正規雇用者等については、「ありのままの自分でいられる」は、大学生同様、「一人有的时候き」が68.3%で最も多く、次いで「家庭」が67.3%となっている。

「喜びや満足を感じられる」と「今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる」は「友人といるとき」が最も多く、「自分の価値観に大きな影響を与えられる」や「自分が役に立っていると思える」は「学校・職場」が最も多くなっている。

「何も感じない」は「地域」が67.3%で最も多い。(表3-4-2④)

【表 3-4-2④ 就学・就労形態別 普段感じる気持ち<正規雇用者等>】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ありのままの自分でいられる	一人有的时候き	家庭	友人といるとき	学校・職場	地域
	68.3	67.3	47.5	12.9	9.9
喜びや満足を感じられる	友人といるとき	家庭	学校・職場	一人有的时候き	地域
	47.5	29.7	23.8	12.9	5.0
自分の価値観に大きな影響を与えられる	学校・職場	友人といるとき	家庭	一人有的时候き	地域
	28.7	23.8	11.9	2.0	1.0
自分が役に立っていると思える	学校・職場	家庭	友人といるとき	地域	一人有的时候き
	36.6	14.9	3.0	2.0	1.0
今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる	友人といるとき	学校・職場	家庭	地域	一人有的时候き
	35.6	17.8	6.9	5.9	3.0
自分自身の居場所だと思える	家庭	一人有的时候き	友人といるとき	地域	学校・職場
	45.5	22.8	16.8	8.9	6.9
何も感じない	地域	学校・職場	一人有的时候き	家庭	友人といるとき
	67.3	25.7	14.9	7.9	4.0

非正規雇用者については、「ありのままの自分でいられる」は「家庭」が61.2%で最も多く次いで「一人でいるとき」が57.1%となっている。

「喜びや満足を感じられる」や「自分の価値観に大きな影響を与えられる」、「今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる」は「友人といるとき」が最も多い。

「自分が役に立っていると思える」は「学校・職場」が30.6%で最も多く、「自分自身の居場所だと思える」は「家庭」が38.8%で最も多くなっている。(表3-4-2⑤)

「何も感じない」は「地域」が65.3%で最も多い。

【表 3-4-2⑤ 就学・就労形態別 普段感じる気持ち<非正規雇用者>】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ありのままの自分でいられる	家庭	一人でいるとき	友人といるとき	学校・職場	地域
	61.2	57.1	38.8	8.2	6.1
喜びや満足を感じられる	友人といるとき	学校・職場	家庭	一人でいるとき	地域
	38.8	22.4	20.4	8.2	2.0
自分の価値観に大きな影響を与えられる	友人といるとき	学校・職場	家庭	一人でいるとき	地域
	24.5	16.3	2.0	-	-
自分が役に立っていると思える	学校・職場	家庭	友人といるとき	地域	一人でいるとき
	30.6	12.2	8.2	4.1	-
今後の生き方のヒントやモデルを示してくれる	友人といるとき	学校・職場	家庭	地域	一人でいるとき
	22.4	10.2	8.2	2.0	-
自分自身の居場所だと思える	家庭	一人でいるとき	友人といるとき	学校・職場	地域
	38.8	18.4	16.3	14.3	-
何も感じない	地域	学校・職場	一人でいるとき	家庭	友人といるとき
	65.3	30.6	20.4	10.2	-

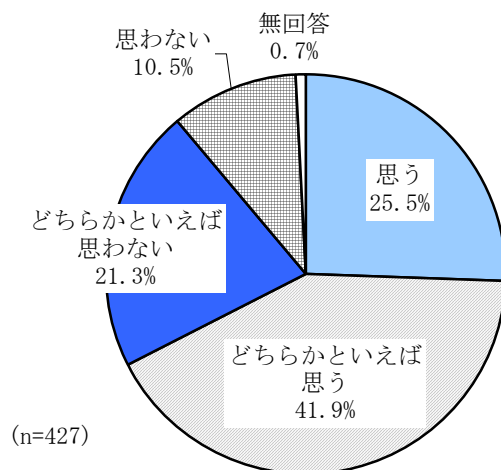
上記の結果から、就学・就労形態に関係なく、「ありのままの自分でいられる」、「自分自身の居場所だと思える」は、「家庭」が多くなっている。しかし、すべての青少年が「家庭」を挙げているわけではなく、大学生等や正規雇用者では、「一人でいるとき」も多く、「家庭」が必ずしも素顔をさらけだせる場所となっていない様子がうかがえる。

また、どの世代も自分の価値観や生き方に「友人」から受ける影響の大きさを感じている反面、「地域」からの影響力を感じる青少年は少ない。友人に比べ地域とかかわりをもつ青少年が少ないことが背景にあるものと考えられる。

(5) 他者との関係に対する自己評価

問12 自分が誰かの役に立っていると思いますか。(○は1つ)

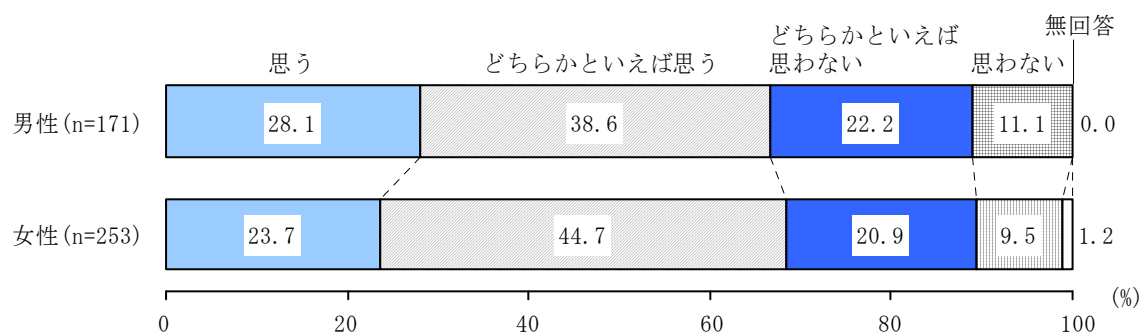
【図 3-5 他者との関係に対する自己評価】



「役に立っていると思う」(「思う」と「どちらかと思う」を合わせた割合)が67.4%に対し、「役に立っていると思わない」(「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせた割合)は31.8%で、役に立っていると自己評価する青少年が多い。(図3-5)

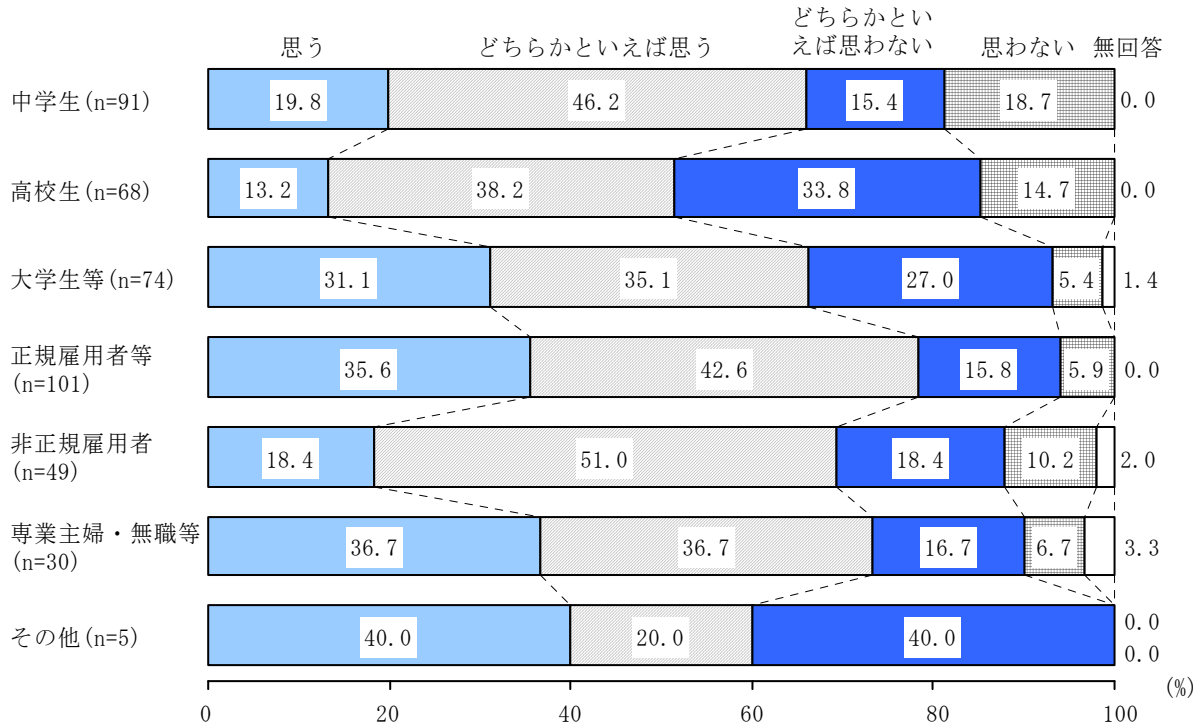
性別では、「役に立っていると思う」は男女とも6割を超えている(男性66.7%,女性68.4%)。(図3-5-1)

【図 3-5-1 性別 他者との関係に対する自己評価】



就学・就労形態別でみると、いずれも「役に立っていると思う」が半数以上を占め、特に正規雇用者等が 78.2%で最も高くなっている。これに対し、「役に立っていると思わない」の割合は、高校生が 48.5%で最も高い。(図 3-5-2)

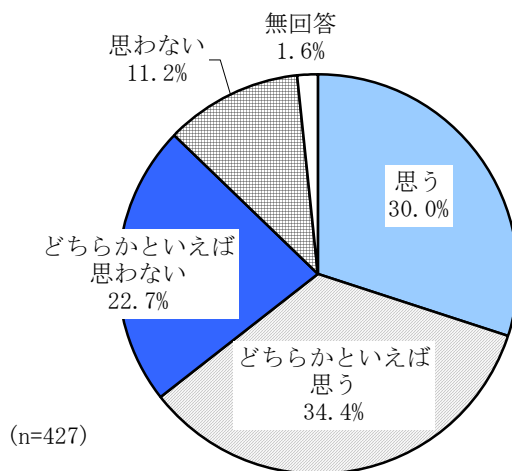
【図 3-5-2 就学・就労形態別 他者との関係に対する自己評価】



(6) 自己の存在に対する自己評価

問13 自分は価値ある存在だと思いますか。(○は1つ)

【図 3-6 自己の存在に対する自己評価】

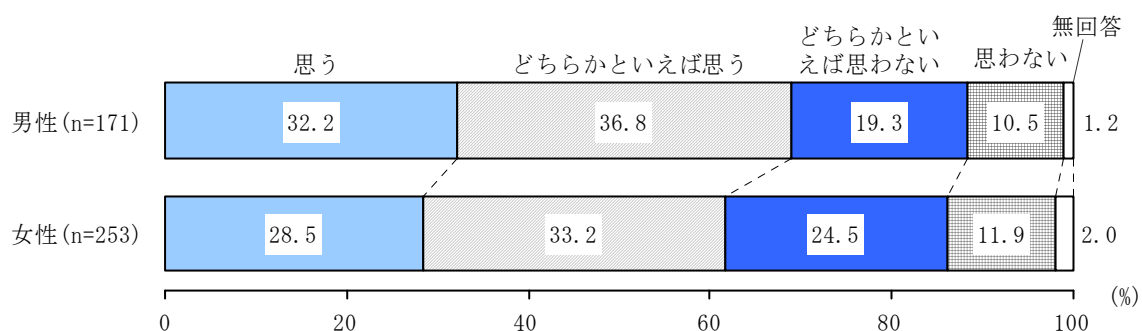


「価値ある存在だと思う」(「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた割合)が64.4%に対し、「価値ある存在だと思わない」(「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせた割合)は33.9%となっている。

肯定する青少年が上回っているものの、他人の役に立っているか(問12)という質問同様、自己否定をする青少年がほぼ3人に1人で、少なくない。(図3-6)

性別で見ると、男女とも「価値ある存在だと思う」が6割以上を占め、男性が69.0%に対し、女性が61.7%で7.3ポイントの差が生じている。(図3-6-1)

【図 3-6-1 性別 自己の存在に対する自己評価】

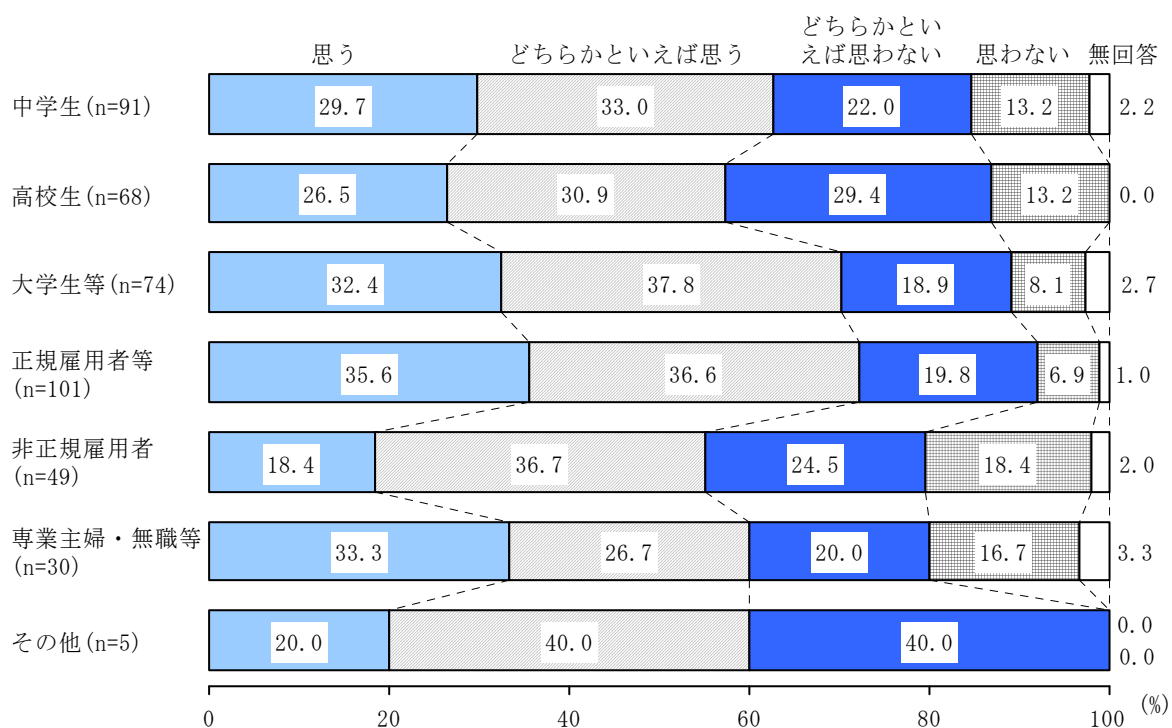


就学・就労形態別では、いずれも「価値ある存在だと思う」が半数以上を占め、大学生等（70.2%）と正規雇用者等（72.2%）は、いずれも7割を超えている。

これに対し、「価値ある存在だと思わない」は、高校生（42.6%）と非正規雇用者（42.9%）が高く、いずれも4割を超えている。

問12の結果を合わせてみても、特に高校生で自己否定的な意識をもっている傾向が強くみられる。また、非正規雇用者でも自己の価値を否定する傾向が強く、高校生とともに自分の能力に対し自信や信頼に欠けている様子が見られる。（図3-6-2）

【図 3-6-2 就学・就労形態別 自己の存在に対する自己評価】

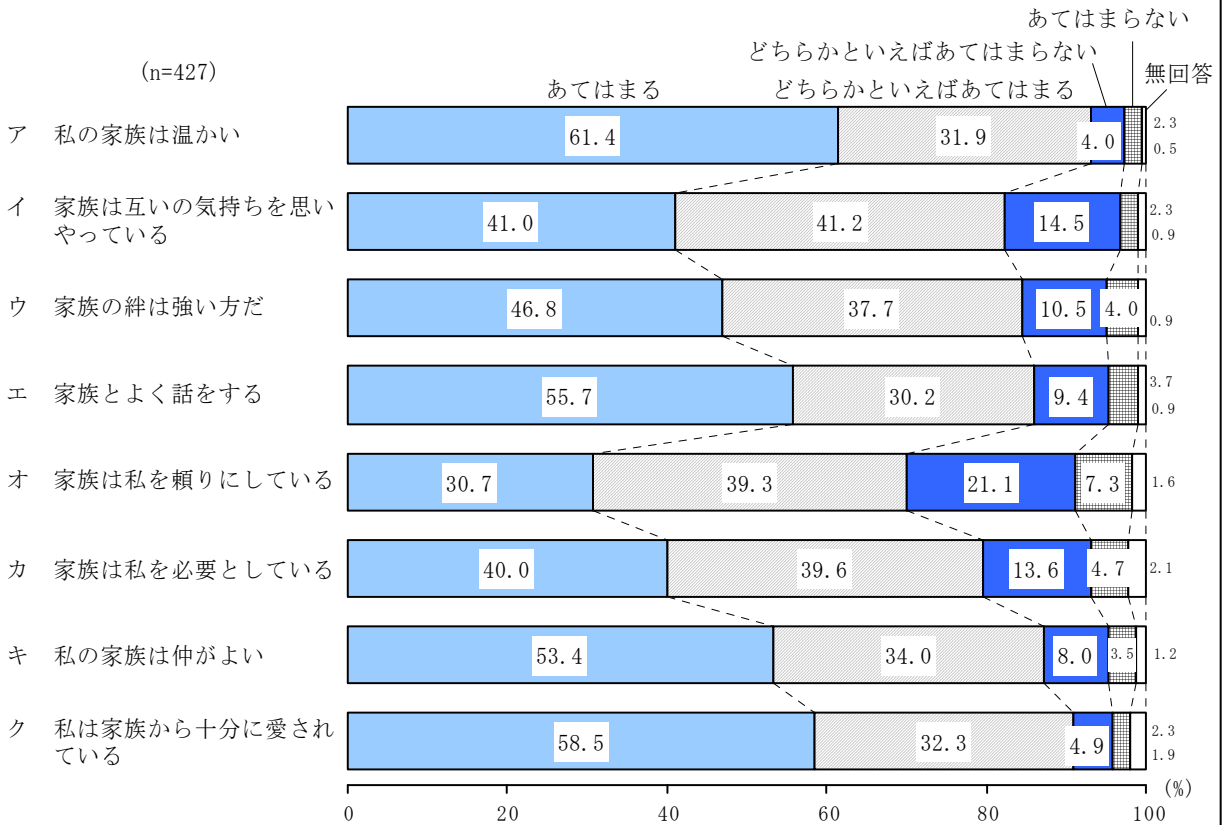


(7) 家族について

問14 あなたのご家族は、次のア～クについてあてはまると思えますか。

(ア～クについて、○はそれぞれ1つずつ)

【図3-7 家族について】



「あてはまる」(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合)は、いずれの項目も半数以上を占めている。特に、「ア 私の家族は温かい」(93.3%)と「ク 私は家族から十分に愛されている」(90.8%)は9割を占める。

一方、「あてはまらない」(「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合)は、「オ 家族は私を頼りにしている」(28.4%)で最も高くなっている。

家族の愛情や絆を感じている青少年が多いが、家族との信頼関係に揺らぎを感じる青少年が3人に1人近くで少なくない。(図3-7)

就学・就労形態別では、就学・就労形態にかかわらず、いずれの項目も「あてはまる」が半数以上を占めている。

「ア 私の家族は温かい」「イ 家族は互いの気持ちを思いやっている」「ウ 家族の絆は強い方だ」「ク 私は家族から十分に愛されている」の割合は、高校生が最も低い。(表3-7-2①～②)

【表 3-7-2① 就学・就労形態別 家族について】

ア 私の家族は温かい

	n	あてはまる	あど ちらは かとい えば	あど ちらは かとい えば	あて はまら ない	無 回 答
中学生	91	53.8	38.5	5.5	2.2	-
高校生	68	57.4	32.4	8.8	1.5	-
大学生等	74	66.2	27.0	1.4	4.1	1.4
正規雇用者等	101	66.3	26.7	3.0	3.0	1.0
非正規雇用者	49	59.2	34.7	4.1	2.0	-
専業主婦・無職等	30	76.7	23.3	-	-	-
その他	5	60.0	40.0	-	-	-

イ 家族は互いの気持ちを思いやっている
(単位:%)

	n	あてはまる	あど ちらは かとい えば	あど ちらは かとい えば	あて はまら ない	無 回 答
中学生	91	37.4	47.3	12.1	2.2	1.1
高校生	68	35.3	33.8	27.9	2.9	-
大学生等	74	43.2	37.8	13.5	4.1	1.4
正規雇用者等	101	41.6	45.5	9.9	2.0	1.0
非正規雇用者	49	36.7	42.9	18.4	2.0	-
専業主婦・無職等	30	66.7	30.0	3.3	-	-
その他	5	40.0	60.0	-	-	-

ウ 家族の絆は強い方だ

	n	あてはまる	あど ちらは かとい えば	あど ちらは かとい えば	あて はまら ない	無 回 答
中学生	91	45.1	41.8	6.6	5.5	1.1
高校生	68	47.1	27.9	17.6	7.4	-
大学生等	74	45.9	37.8	10.8	4.1	1.4
正規雇用者等	101	44.6	44.6	6.9	3.0	1.0
非正規雇用者	49	40.8	38.8	20.4	-	-
専業主婦・無職等	30	76.7	16.7	3.3	3.3	-
その他	5	20.0	80.0	-	-	-

エ 家族とよく話をする
(単位:%)

	n	あてはまる	あど ちらは かとい えば	あど ちらは かとい えば	あて はまら ない	無 回 答
中学生	91	62.6	22.0	8.8	5.5	1.1
高校生	68	60.3	26.5	8.8	4.4	-
大学生等	74	54.1	36.5	8.1	-	1.4
正規雇用者等	101	45.5	38.6	8.9	5.9	1.0
非正規雇用者	49	51.0	30.6	16.3	2.0	-
専業主婦・無職等	30	80.0	10.0	10.0	-	-
その他	5	20.0	80.0	-	-	-

オ 家族は私を頼りにしている

	n	あてはまる	あど ちらは かとい えば	あど ちらは かとい えば	あて はまら ない	無 回 答
中学生	91	28.6	37.4	19.8	11.0	3.3
高校生	68	22.1	45.6	25.0	7.4	-
大学生等	74	36.5	41.9	14.9	5.4	1.4
正規雇用者等	101	33.7	38.6	18.8	6.9	2.0
非正規雇用者	49	18.4	38.8	34.7	8.2	-
専業主婦・無職等	30	50.0	33.3	16.7	-	-
その他	5	40.0	40.0	20.0	-	-

カ 家族は私を必要としている
(単位:%)

	n	あてはまる	あど ちらは かとい えば	あど ちらは かとい えば	あて はまら ない	無 回 答
中学生	91	37.4	38.5	13.2	6.6	4.4
高校生	68	36.8	42.6	14.7	4.4	1.5
大学生等	74	50.0	35.1	10.8	2.7	1.4
正規雇用者等	101	38.6	44.6	9.9	5.0	2.0
非正規雇用者	49	26.5	40.8	26.5	6.1	-
専業主婦・無職等	30	60.0	26.7	13.3	-	-
その他	5	40.0	60.0	-	-	-

【表 3-7-2② 就学・就労形態別 家族について】

キ 私の家族は仲がよい

ク 私は家族から十分に愛されている

(単位:%)

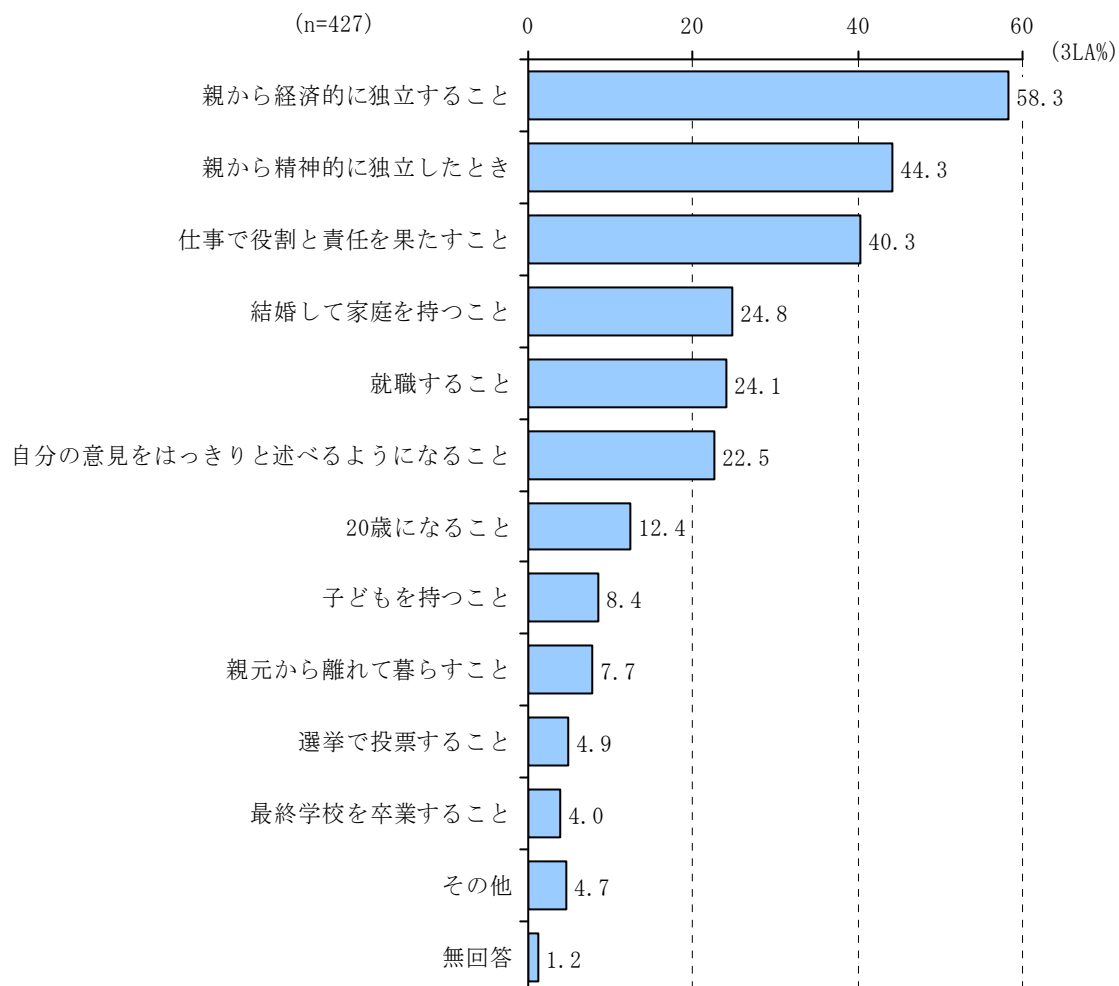
	n	あてはまる	どちらかといえはあてはまる	どちらかといえはあてはまらない	あてはまらない	無回答
中学生	91	48.4	40.7	6.6	3.3	1.1
高校生	68	47.1	36.8	10.3	5.9	-
大学生等	74	54.1	29.7	12.2	2.7	1.4
正規雇用者等	101	59.4	30.7	5.0	4.0	1.0
非正規雇用者	49	46.9	36.7	12.2	4.1	-
専業主婦・無職等	30	73.3	20.0	3.3	-	3.3
その他	5	60.0	40.0	-	-	-

	n	あてはまる	どちらかといえはあてはまる	どちらかといえはあてはまらない	あてはまらない	無回答
	91	51.6	37.4	6.6	2.2	2.2
	68	54.4	32.4	8.8	2.9	1.5
	74	66.2	28.4	2.7	1.4	1.4
	101	61.4	30.7	2.0	4.0	2.0
	49	49.0	38.8	8.2	2.0	2.0
	30	73.3	23.3	3.3	-	-
	5	80.0	20.0	-	-	-

(8) 自立意識 (大人になることについて)

問15 「大人になる」ということは、どのようなことだと思いますか。
(○は主なもの3つまで)

【図3-8 大人になることについて】

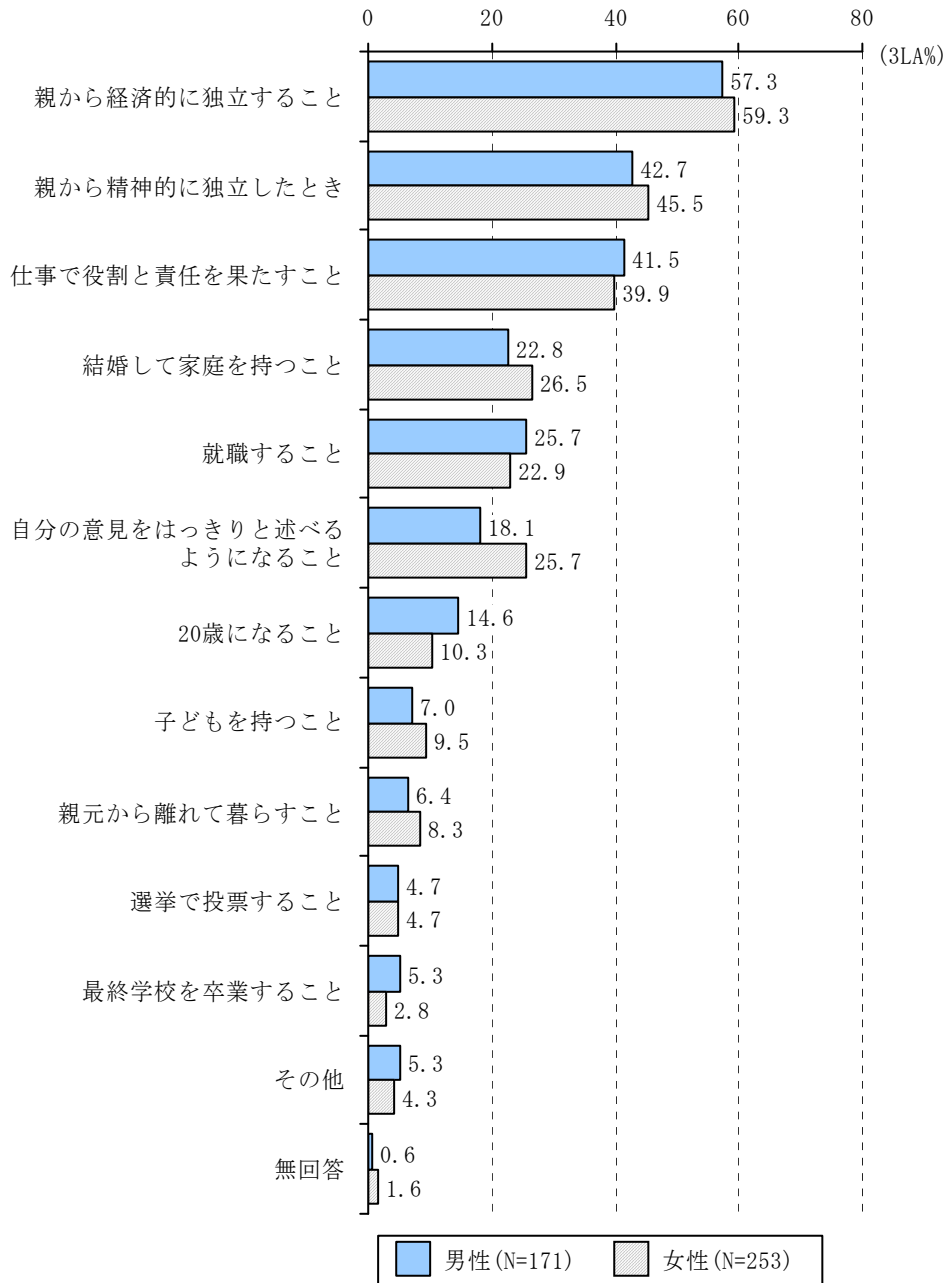


「親から経済的に独立するとき」が58.3%で最も多く、次いで「親から精神的に独立したとき」(44.3%)、「仕事で役割と責任を果たすこと」(40.3%)となっている。

一方、「20歳になること」(12.4%)や「選挙で投票すること」(4.9%)は、これらに比べ低い。(図3-8)

性別でも、男女とも「親から経済的に独立するとき」が最も多く、次いで「親から精神的に独立したとき」、「仕事で役割と責任を果たすこと」となっており、大きな差はみられない。(図3-8-1)

【図 3-8-1 性別 大人になることについて】

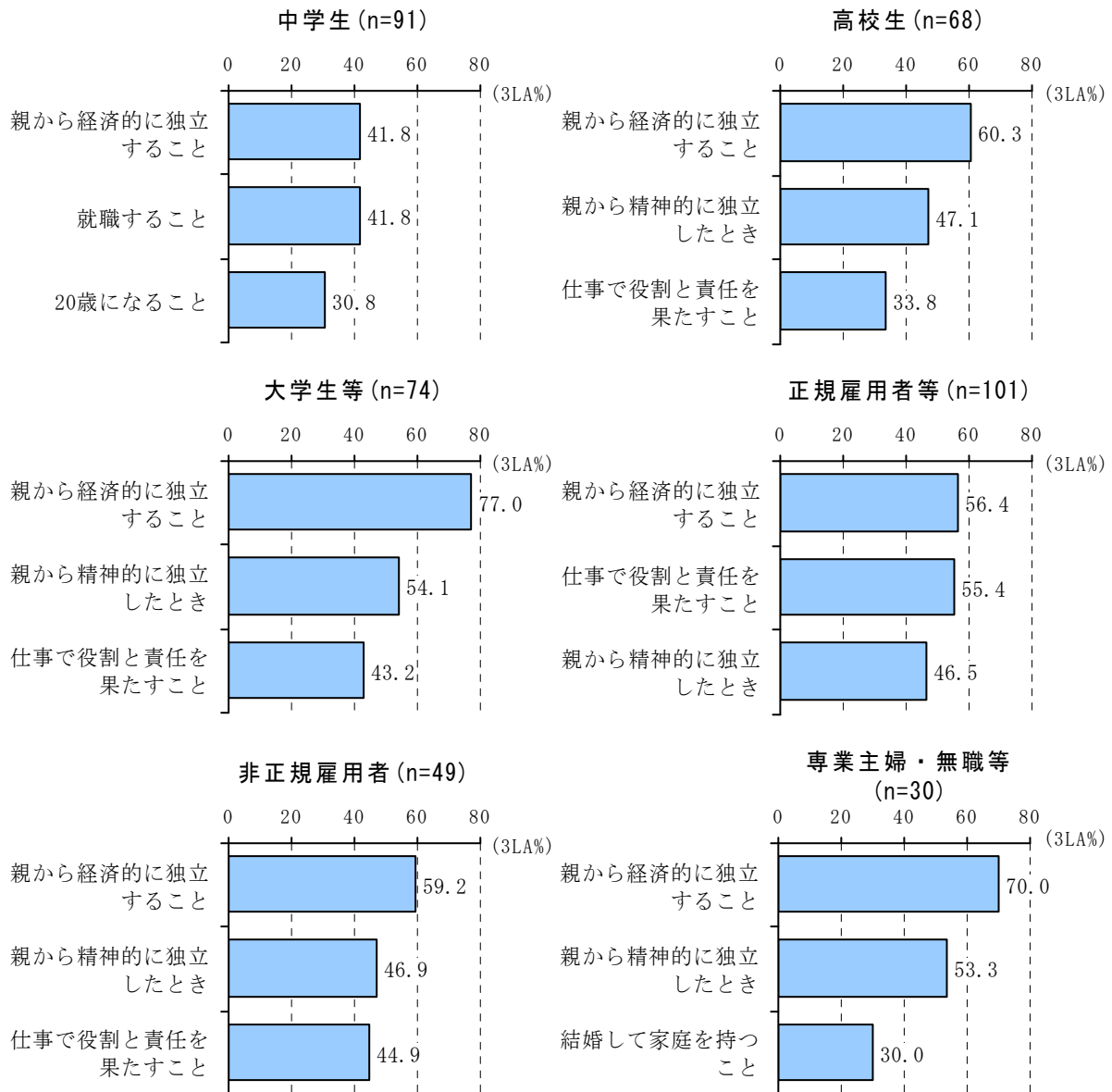


就学・就労形態に関係なく、「親から経済的に独立すること」が最も多い。

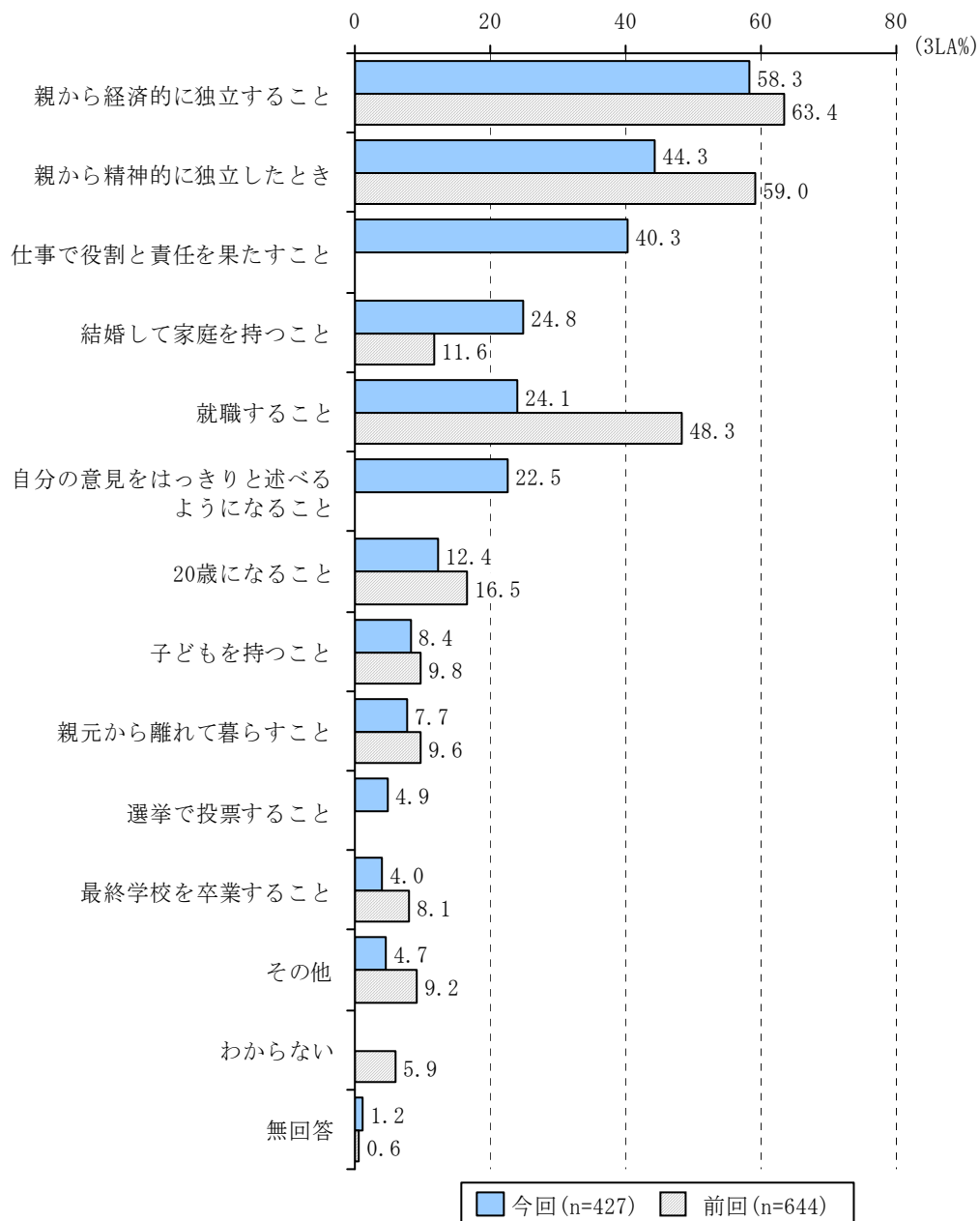
中学生は、これに加えて「就職すること」も同率（41.8%）となっている。

正規雇用者等では「仕事で役割と責任を果たすこと」が55.4%，他の形態では「親から精神的に独立したとき」が5割前後で続いている。（図3-8-2）

【図3-8-2 主な就学・就労形態別 大人になることについて（上位3項目）】



＜前回調査との比較＞



前回調査と選択肢が異なるので単純に比較できない部分もあるが、前回同様、「親から経済的に独立すること」と「親から精神的に独立したとき」が上位となっている。

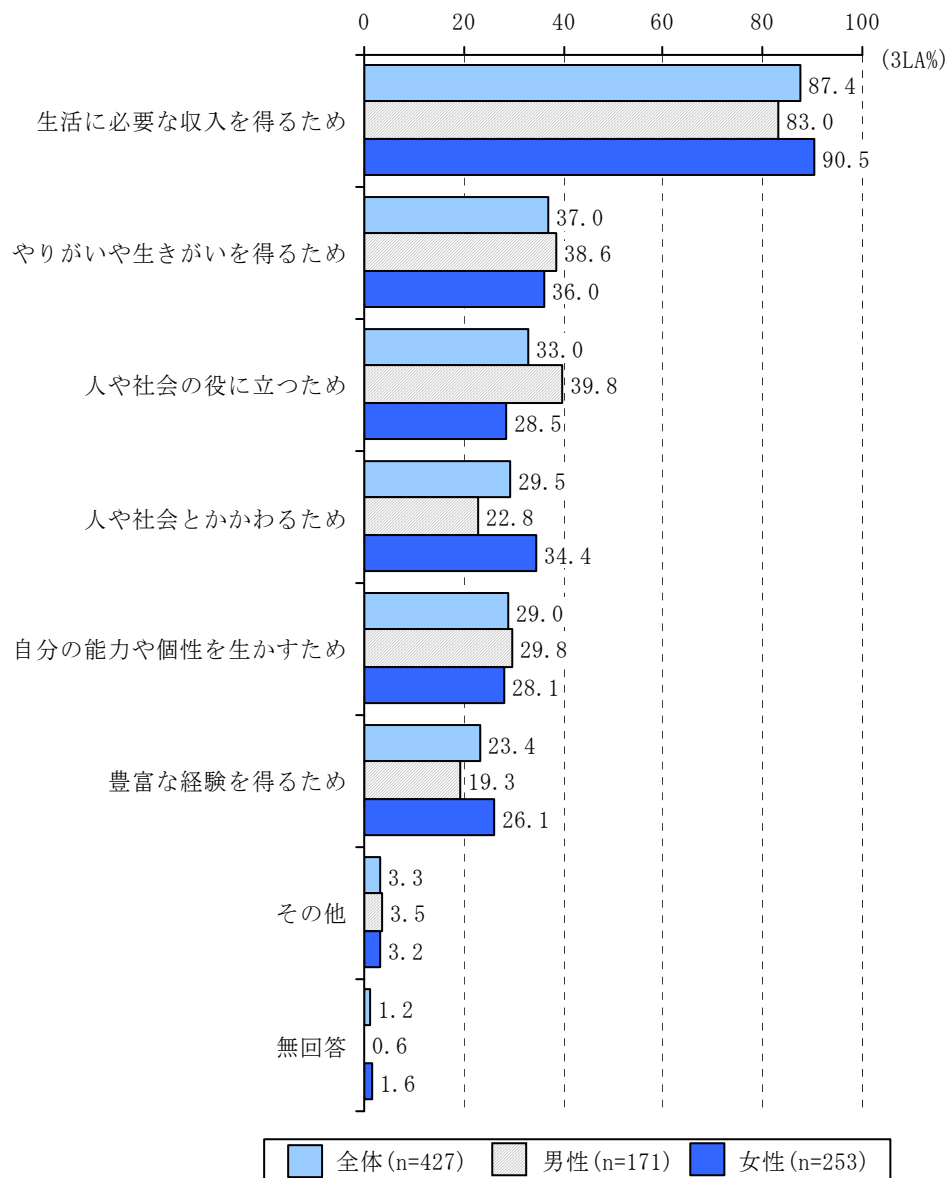
「就職すること」が、前回より大きく低下しているが、これは、「仕事で役割と責任を果たすこと」という項目を今回新たに設けた影響と思われる。

一方、「結婚して家庭を持つこと」は、就学・就労形態にかかわらず、前回調査より上昇している。

(9) 働く目的に対する考え方

問16 あなたは、働く目的は何だと思えますか。(〇は主なもの3つまで)

【図 3-9 働く目的に対する考え方】



「生活に必要な収入を得るため」が87.4%で最も多く、次いで「やりがいや生きがいを得るため」(37.0%)、「人や社会の役に立つため」(33.0%)となっている。

性別では、男女とも「生活に必要な収入を得るため」が最も多いが、女性の方が7.5ポイント高い(男性83.0%、女性90.5%)。次いで、男性は「人や社会の役に立つため」(39.8%)、女性は「やりがいや生きがいを得るため」(36.0%)となっている。(図3-9)

就学・就労形態別では、いずれも「生活に必要な収入を得るため」が8割以上を占める。次いで、中学生では「人や社会の役に立つため」(42.9%)、高校生では「自分の能力や個性を生かすため」(32.4%)、大学生等や就労者・非就労者では、「やりがいや生きがいを得るため」が3～4割台で続いている。またこれに加えて、非正規雇用者では「人や社会とかわるため」や「豊富な経験を得るため」も同率(34.7%)となっている。(表3-9-1)

【表 3-9-1 就学・就労形態別 働く目的】

(単位：3LA%)

	n	生活に必要な収入を得るため	やりがいや生きがいを得るため	人や社会の役に立つため	人や社会とかわるため	自分の能力や個性を生かすため	豊富な経験を得るため	その他	無回答
中学生	91	90.1	34.1	42.9	31.9	34.1	16.5	3.3	1.1
高校生	68	82.4	27.9	27.9	22.1	32.4	19.1	5.9	-
大学生等	74	83.8	39.2	37.8	32.4	27.0	32.4	1.4	1.4
正規雇用者等	101	86.1	43.6	34.7	26.7	26.7	17.8	3.0	3.0
非正規雇用者	49	95.9	34.7	22.4	34.7	12.2	34.7	6.1	-
専業主婦・無職等	30	90.0	40.0	16.7	36.7	40.0	30.0	-	-
その他	5	100.0	40.0	40.0	-	40.0	40.0	-	-

＜前回調査との比較＞

(単位：3LA%)

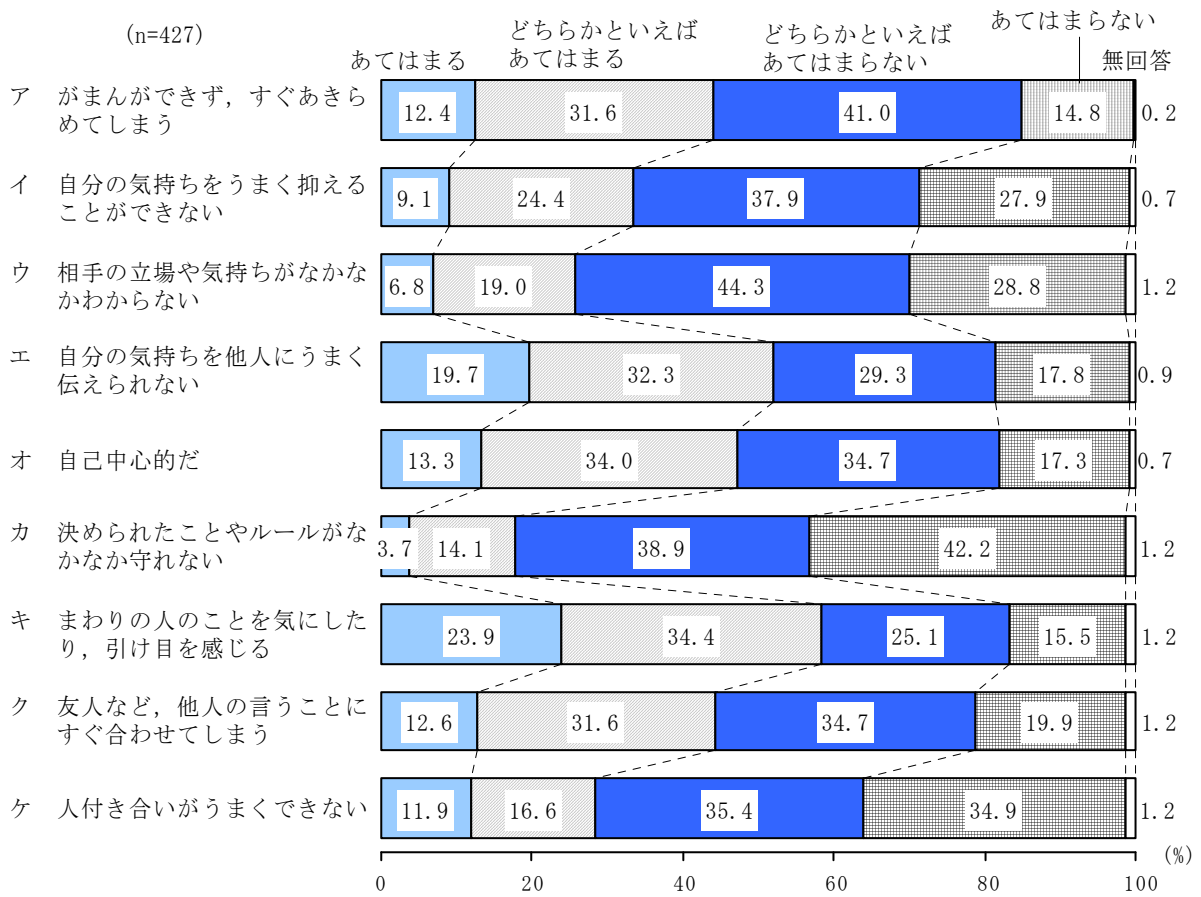
今回 (n=427)		前回 (n=644)	
生活に必要な収入を得るため	87.4	生活のため	75.8
自分の能力や個性を生かすため	29.0	自分自身の成長をさせるため	38.4
		自分の成長を生かす場のため	21.9
人や社会の役に立つため	33.0	社会に貢献するため	15.1
やりがいや生きがいを得るため	37.0	やりがいやいきがいを得るため	31.7
人や社会とかわるため	29.5	新しい仲間や人と出会う場	24.8
豊富な経験を得るため	23.4	経済的・社会的な自立のため	41.6
その他	3.3	その他	1.7
無回答	1.2	無回答	1.9

前回調査と選択肢が異なるので単純に比較できない部分もあるが、前回調査同様、「生活のため」が最も多い。

(10) 自分の性格について

問17 今のあなたは、次のア～ケについてあてはまると思えますか。(ア～ケについて、○はそれぞれ1つずつ)

【図 3-10 自分の性格について】



「あてはまる」(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合)は、「キ まわりの人のことを気にしたり、引け目を感じる」が58.3%で最も高く、次いで「エ 自分の気持ちを他人にうまく伝えられない」(52.0%)、「オ 自己中心的だ」(47.3%)となっている。

これに対し、「あてはまらない」(「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合)は、「カ 決められたことやルールがなかなか守れない」が81.1%で最も高く、次いで「ウ 相手の立場や気持ちがなかなかわからない」(73.1%)となっている。(図3-10)

就学・就労形態別でみると、「ア がまんができません、すぐあきらめてしまう」が「あてはまる」割合は、中学生、高校生が5割台で高く、他の形態では「あてはまらない」割合の方が高い。高校生は、問12や問13で自己否定の傾向がみられたが、「キ まわりの人のことを気にしたり、引け目を感じる」や「友人など、他人の言うことにすぐ合わせてしまう」に対しては、あてはまらない割合が比較的高く、むしろ他者には同調しないと評しており、自己意識に矛盾点がみられる。

「イ 自分の気持ちをうまく抑えることができない」「ウ 相手の立場や気持ちがなかなかわからない」「カ 決められたことやルールがなかなか守れない」「ケ 人付き合いがうまくできない」は、就学・就労形態に関係なく、「あてはまらない」割合が高くなっている。(表3-10-2①～②)

【表 3-10-2① 就学・就労形態別 自分の性格について】

ア がまんができません、すぐあきらめてしまう

	n	あてはまる	あてはまるかといえ ば	あてはまるかといえ ば	あてはまらない	無回答
中学生	91	17.6	34.1	34.1	14.3	-
高校生	68	13.2	42.6	33.8	10.3	-
大学生等	74	10.8	27.0	35.1	27.0	-
正規雇用者等	101	8.9	27.7	50.5	11.9	1.0
非正規雇用者	49	10.2	30.6	49.0	10.2	-
専業主婦・無職等	30	13.3	23.3	50.0	13.3	-
その他	5	20.0	-	60.0	20.0	-

イ 自分の気持ちをうまく抑えることができない (単位:%)

	n	あてはまる	あてはまるかといえ ば	あてはまるかといえ ば	あてはまらない	無回答
中学生	91	5.5	26.4	41.8	25.3	1.1
高校生	68	11.8	20.6	47.1	20.6	-
大学生等	74	10.8	14.9	36.5	37.8	-
正規雇用者等	101	7.9	25.7	30.7	33.7	2.0
非正規雇用者	49	12.2	30.6	34.7	22.4	-
専業主婦・無職等	30	10.0	30.0	40.0	20.0	-
その他	5	-	60.0	20.0	20.0	-

ウ 相手の立場や気持ちがなかなかわからない

	n	あてはまる	あてはまるかといえ ば	あてはまるかといえ ば	あてはまらない	無回答
中学生	91	6.6	18.7	50.5	23.1	1.1
高校生	68	7.4	13.2	50.0	29.4	-
大学生等	74	8.1	18.9	36.5	35.1	1.4
正規雇用者等	101	5.9	21.8	38.6	31.7	2.0
非正規雇用者	49	10.2	26.5	42.9	20.4	-
専業主婦・無職等	30	3.3	16.7	46.7	33.3	-
その他	5	-	-	60.0	40.0	-

エ 自分の気持ちを他人にうまく伝えられない (単位:%)

	n	あてはまる	あてはまるかといえ ば	あてはまるかといえ ば	あてはまらない	無回答
中学生	91	17.6	27.5	31.9	20.9	2.2
高校生	68	17.6	29.4	33.8	19.1	-
大学生等	74	21.6	39.2	24.3	14.9	-
正規雇用者等	101	18.8	29.7	30.7	19.8	1.0
非正規雇用者	49	24.5	44.9	24.5	6.1	-
専業主婦・無職等	30	16.7	26.7	30.0	26.7	-
その他	5	20.0	40.0	20.0	20.0	-

オ 自己中心的だ

	n	あてはまる	あてはまるかといえ ば	あてはまるかといえ ば	あてはまらない	無回答
中学生	91	12.1	27.5	34.1	25.3	1.1
高校生	68	16.2	30.9	39.7	13.2	-
大学生等	74	12.2	32.4	35.1	20.3	-
正規雇用者等	101	16.8	36.6	30.7	14.9	1.0
非正規雇用者	49	12.2	40.8	32.7	14.3	-
専業主婦・無職等	30	3.3	53.3	36.7	6.7	-
その他	5	-	-	60.0	40.0	-

カ 決められたことやルールがなかなか守れない (単位:%)

	n	あてはまる	あてはまるかといえ ば	あてはまるかといえ ば	あてはまらない	無回答
中学生	91	5.5	19.8	33.0	40.7	1.1
高校生	68	7.4	13.2	39.7	39.7	-
大学生等	74	4.1	10.8	43.2	40.5	1.4
正規雇用者等	101	2.0	14.9	36.6	44.6	2.0
非正規雇用者	49	2.0	16.3	44.9	36.7	-
専業主婦・無職等	30	-	3.3	50.0	46.7	-
その他	5	-	-	20.0	80.0	-

【表 3-10-2② 就学・就労形態別 自分の性格について】

キ まわりの人のことを気にしたり、引け目を感じる

	n	あてはまる	あどち あては まると いえば	あどち あては まると いえば	あては まらな い	無 回 答
中学生	91	24.2	36.3	20.9	17.6	1.1
高校生	68	17.6	35.3	32.4	14.7	-
大学生等	74	27.0	40.5	18.9	10.8	2.7
正規雇用者等	101	17.8	30.7	28.7	21.8	1.0
非正規雇用者	49	34.7	28.6	26.5	10.2	-
専業主婦・無職等	30	30.0	43.3	13.3	13.3	-
その他	5	20.0	20.0	60.0	-	-

ク 友人など、他人の言うことにすぐ
合わせてしまう (単位:%)

	n	あてはまる	あどち あては まると いえば	あどち あては まると いえば	あては まらな い	無 回 答
中学生	91	15.4	29.7	27.5	26.4	1.1
高校生	68	10.3	23.5	42.6	23.5	-
大学生等	74	13.5	32.4	33.8	20.3	-
正規雇用者等	101	7.9	34.7	37.6	16.8	3.0
非正規雇用者	49	14.3	36.7	32.7	16.3	-
専業主婦・無職等	30	13.3	30.0	40.0	16.7	-
その他	5	20.0	40.0	40.0	-	-

ケ 人付き合いがうまくできない

(単位:%)

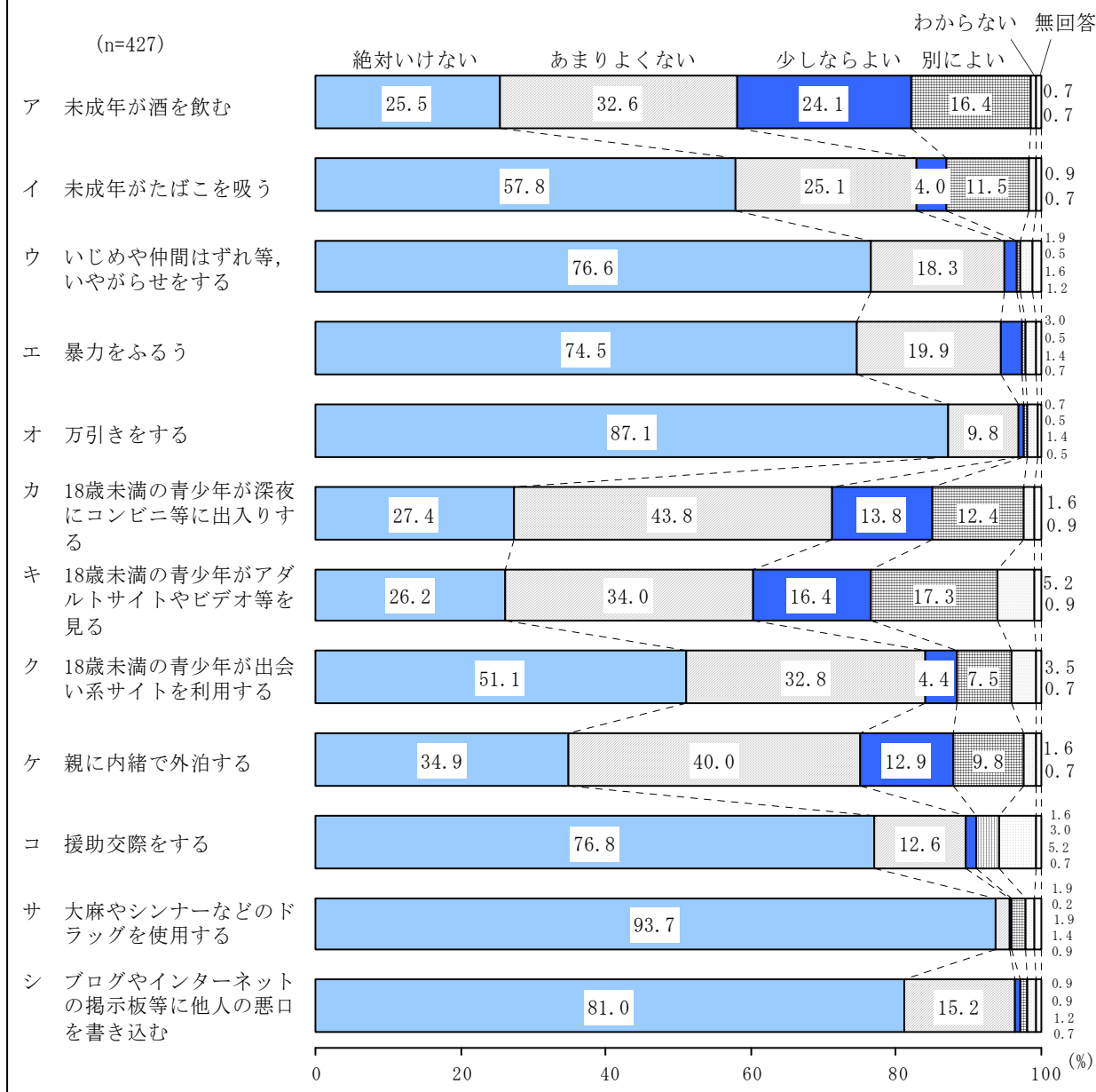
	n	あてはまる	あどち あては まると いえば	あどち あては まると いえば	あては まらな い	無 回 答
中学生	91	15.4	14.3	31.9	37.4	1.1
高校生	68	4.4	16.2	41.2	38.2	-
大学生等	74	12.2	13.5	35.1	37.8	1.4
正規雇用者等	101	12.9	10.9	38.6	35.6	2.0
非正規雇用者	49	16.3	28.6	26.5	28.6	-
専業主婦・無職等	30	13.3	33.3	23.3	30.0	-
その他	5	-	-	80.0	20.0	-

(11) 規範意識

問18 次のことを行うことについてどう思いますか。

(ア～シについて、○はそれぞれ1つずつ)

【図 3-11 規範意識】

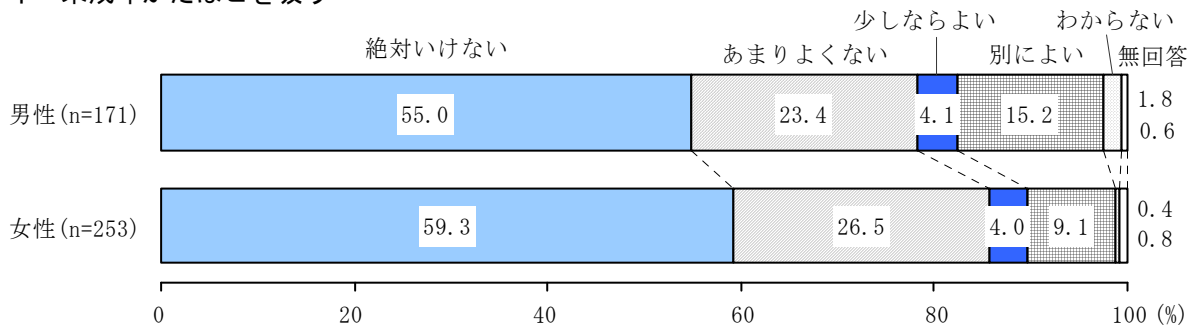


「絶対いけない」の割合が最も高いのは、「サ 大麻やシンナーなどのドラッグを使用する」(93.7%)で、次いで「オ 万引きをする」(87.1%)、「シ ブログやインターネットの掲示板等に他人の悪口を書き込む」(81.0%)となっている。一方、最も低いのは、「ア 未成年が酒を飲む」(25.5%)で、次いで「キ 18歳未満の青少年がアダルトサイトやビデオ等を見る」(26.2%)となっている。年齢(18歳未満や未成年など)により制限されている行動については比較的寛容であるが、年齢にかかわらず望ましくない行動については、規範意識が高いことがうかがえる。(図3-11)

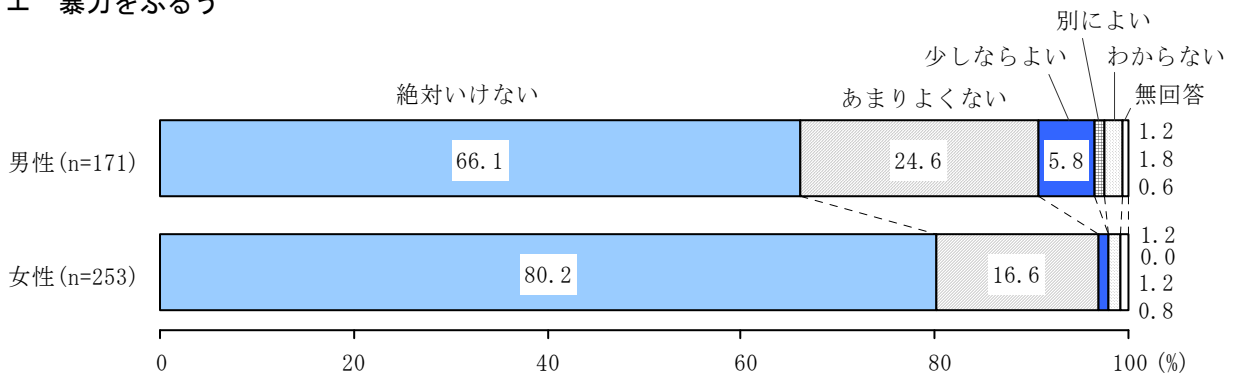
性別では、「よくない」（「絶対いけない」と「あまりよくない」を合わせた割合）の割合で、男性と女性で5ポイント以上の差が生じていたのは、「イ 未成年がたばこを吸う」「エ 暴力をふるう」「ク 18歳未満の青少年が出会い系サイトを利用する」「ケ 親に内緒で外泊する」「コ 援助交際をする」であり、いずれも女性の方が高くなっている。女性に比べ男性の方がこれらの行為に対して比較的寛容な態度がみられる。（図3-11-1①～②）

【図3-11-1① 性別 規範意識について】

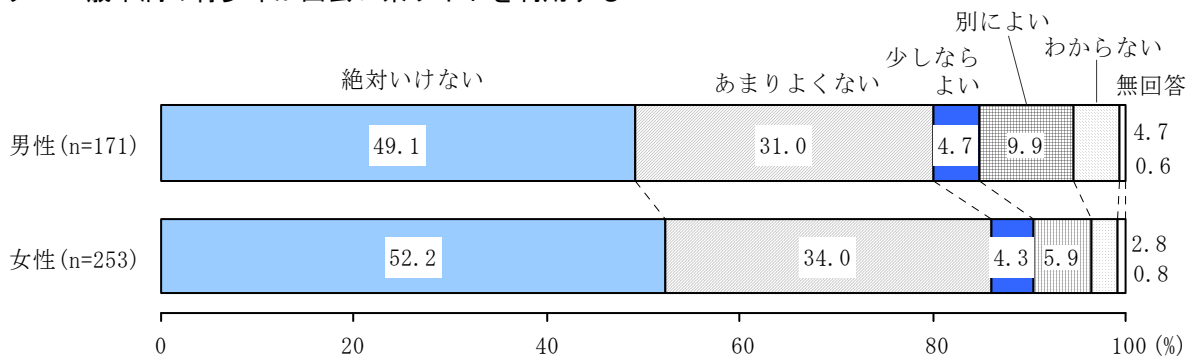
イ 未成年がたばこを吸う



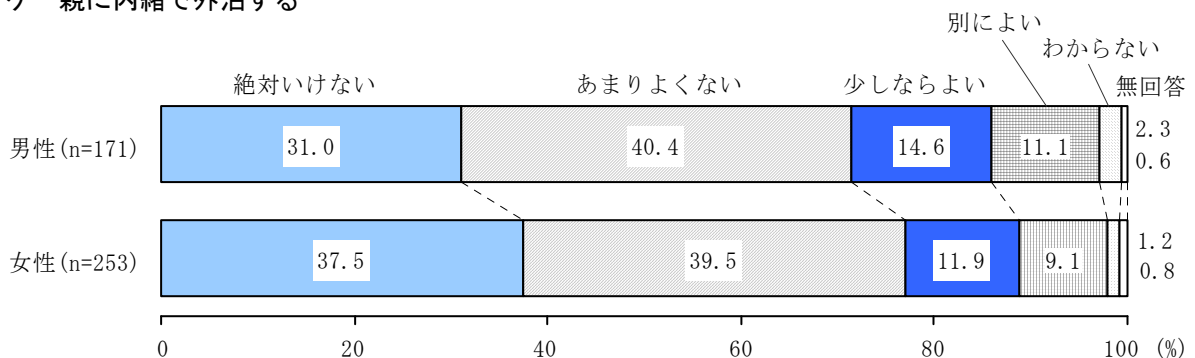
エ 暴力をふるう



ク 18歳未満の青少年が出会い系サイトを利用する

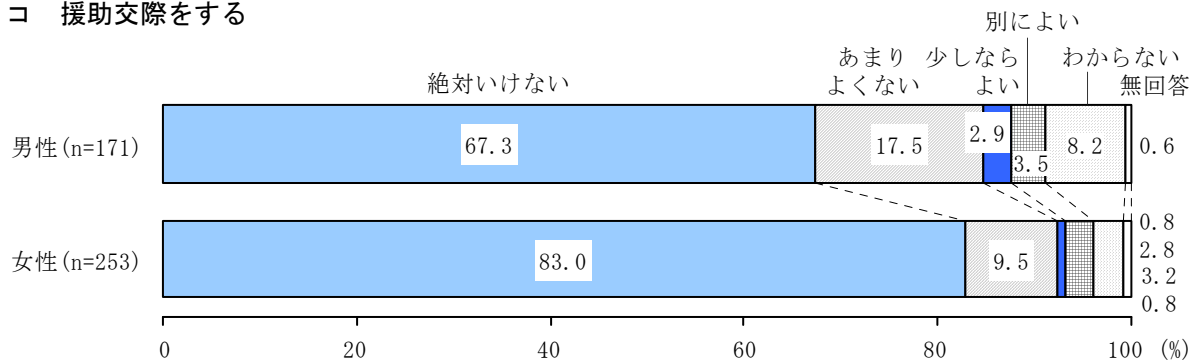


ケ 親に内緒で外泊する



【図 3-11-1② 性別 規範意識について】

コ 援助交際をする



就学・就労形態別では、「ア 未成年が酒を飲む」に「よい」（「少しならよい」と「別によい」を合わせた割合）の割合は、大学生等で 51.4%と高く、高校生（41.2%）、正規雇用者等（47.5%）、非正規雇用者（42.9%）では4割を超えている。

「カ 18歳未満の青少年が深夜にコンビニやカラオケボックス等に入出入りする」の「よい」の割合は、高校生が 33.8%で高い。

「キ 18歳未満の青少年がアダルトサイト、ビデオ（DVD）や雑誌を見る」の「よい」の割合は、大学生等（44.6%）、正規雇用者等（42.6%）、専業主婦・無職等（50.0%）で4割以上を占める。（表 3-11-2①～②）

年齢で制限されている行動については、制限される当事者の年代ほど「よくない」と認識しているが、当事者の年代を過ぎた青少年は、比較的寛容にとらえることがうかがえる。

【表 3-11-2① 就学・就労形態別 未成年の行動について】

ア 未成年が酒を飲む

	n	絶対いけない	あまりよくない	少しならよい	別によい	わからない	無回答
中学生	91	44.0	23.1	18.7	11.0	1.1	2.2
高校生	68	32.4	26.5	26.5	14.7	-	-
大学生等	74	18.9	28.4	25.7	25.7	1.4	-
正規雇用者等	101	14.9	36.6	25.7	21.8	-	1.0
非正規雇用者	49	10.2	46.9	34.7	8.2	-	-
専業主婦・無職等	30	30.0	36.7	20.0	13.3	-	-

イ 未成年がたばこを吸う

(単位：%)

	n	絶対いけない	あまりよくない	少しならよい	別によい	わからない	無回答
中学生	91	71.4	12.1	1.1	9.9	3.3	2.2
高校生	68	61.8	30.9	-	7.4	-	-
大学生等	74	50.0	24.3	8.1	16.2	1.4	-
正規雇用者等	101	48.5	27.7	6.9	15.8	-	1.0
非正規雇用者	49	55.1	32.7	6.1	6.1	-	-
専業主婦・無職等	30	56.7	30.0	-	13.3	-	-

ウ いじめや仲間はずれ等、いやがらせをする

	n	絶対いけない	あまりよくない	少しならよい	別によい	わからない	無回答
中学生	91	69.2	23.1	2.2	-	3.3	2.2
高校生	68	82.4	10.3	1.5	2.9	1.5	1.5
大学生等	74	68.9	21.6	5.4	-	2.7	1.4
正規雇用者等	101	78.2	20.8	-	-	-	1.0
非正規雇用者	49	87.8	12.2	-	-	-	-
専業主婦・無職等	30	83.3	13.3	-	-	3.3	-

エ 暴力をふるう

(単位：%)

	n	絶対いけない	あまりよくない	少しならよい	別によい	わからない	無回答
中学生	91	59.3	31.9	3.3	-	3.3	2.2
高校生	68	79.4	16.2	1.5	2.9	-	-
大学生等	74	73.0	23.0	2.7	-	1.4	-
正規雇用者等	101	78.2	14.9	5.0	-	1.0	1.0
非正規雇用者	49	85.7	12.2	2.0	-	-	-
専業主婦・無職等	30	83.3	13.3	-	-	3.3	-

【表 3-11-2② 就学・就労形態別 未成年の行動について】

オ 万引きをする

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	80.2	13.2	1.1	-	4.4	1.1
高校生	68	89.7	8.8	-	1.5	-	-
大学生等	74	93.2	6.8	-	-	-	-
正規雇用者等	101	87.1	9.9	1.0	1.0	-	1.0
非正規雇用者	49	85.7	10.2	2.0	-	2.0	-
専業主婦・無職等	30	90.0	6.7	-	-	3.3	-

カ 18歳未満の青少年が深夜にコンビニ等に
出入りする (単位：%)

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	28.6	42.9	12.1	11.0	3.3	2.2
高校生	68	26.5	38.2	17.6	16.2	1.5	-
大学生等	74	28.4	39.2	10.8	20.3	1.4	-
正規雇用者等	101	26.7	47.5	12.9	9.9	2.0	1.0
非正規雇用者	49	22.4	51.0	20.4	4.1	-	2.0
専業主婦・無職等	30	36.7	36.7	10.0	16.7	-	-

キ 18歳未満の青少年がアダルトサイトやビデオ等を見る

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	37.4	38.5	3.3	9.9	8.8	2.2
高校生	68	36.8	27.9	13.2	16.2	4.4	1.5
大学生等	74	18.9	29.7	14.9	29.7	6.8	-
正規雇用者等	101	17.8	34.7	23.8	18.8	4.0	1.0
非正規雇用者	49	18.4	42.9	26.5	10.2	2.0	-
専業主婦・無職等	30	23.3	26.7	23.3	26.7	-	-

ク 18歳未満の青少年が出会い系サイトを利用
する (単位：%)

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	53.8	30.8	1.1	7.7	4.4	2.2
高校生	68	61.8	23.5	2.9	8.8	2.9	-
大学生等	74	44.6	33.8	8.1	10.8	2.7	-
正規雇用者等	101	44.6	32.7	7.9	8.9	5.0	1.0
非正規雇用者	49	46.9	46.9	2.0	2.0	2.0	-
専業主婦・無職等	30	56.7	36.7	3.3	3.3	-	-

ケ 親に内緒で外泊する

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	53.8	28.6	6.6	3.3	5.5	2.2
高校生	68	25.0	51.5	10.3	11.8	1.5	-
大学生等	74	29.7	39.2	16.2	14.9	-	-
正規雇用者等	101	26.7	37.6	18.8	14.9	1.0	1.0
非正規雇用者	49	34.7	49.0	12.2	4.1	-	-
専業主婦・無職等	30	43.3	43.3	10.0	3.3	-	-

コ 援助交際をする (単位：%)

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	61.5	15.4	2.2	3.3	15.4	2.2
高校生	68	75.0	14.7	1.5	4.4	4.4	-
大学生等	74	77.0	16.2	1.4	5.4	-	-
正規雇用者等	101	78.2	13.9	3.0	1.0	3.0	1.0
非正規雇用者	49	91.8	4.1	-	2.0	2.0	-
専業主婦・無職等	30	90.0	6.7	-	3.3	-	-

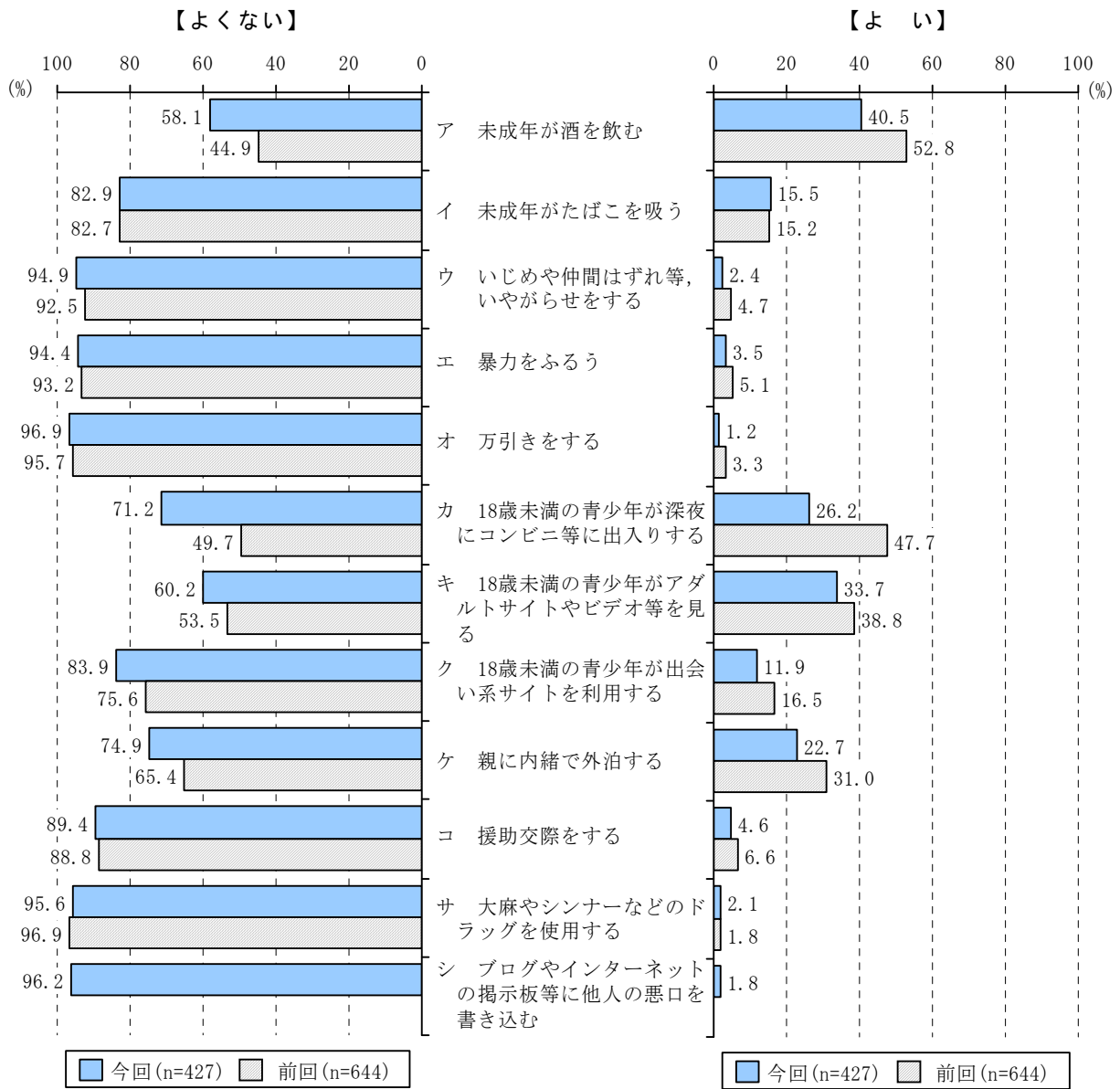
サ 大麻やシンナーなどのドラッグを使用する

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	86.8	3.3	-	2.2	4.4	3.3
高校生	68	94.1	-	1.5	4.4	-	-
大学生等	74	97.3	2.7	-	-	-	-
正規雇用者等	101	94.1	1.0	-	2.0	2.0	1.0
非正規雇用者	49	93.9	4.1	-	2.0	-	-
専業主婦・無職等	30	100.0	-	-	-	-	-

シ ブログやインターネットの掲示板等に他人
の悪口を書き込む (単位：%)

	n	絶対 いけない	あまり よくない	少し ならよい	別に よい	わか らない	無回 答
中学生	91	79.1	13.2	1.1	1.1	3.3	2.2
高校生	68	86.8	8.8	1.5	2.9	-	-
大学生等	74	81.1	16.2	1.4	1.4	-	-
正規雇用者等	101	76.2	21.8	-	-	1.0	1.0
非正規雇用者	49	83.7	14.3	2.0	-	-	-
専業主婦・無職等	30	86.7	10.0	-	-	3.3	-

<前回調査との比較>



前回調査と比較し、「よくない」の割合が10ポイント以上上回る項目は、「ア 未成年が酒を飲む」「カ 18歳未満の青少年が深夜にコンビニやカラオケボックス等に入出入りする」である。